

令和 2 (2020) 年度  
自 己 点 検 評 価 書

令和 3 (2021) 年 6 月  
秋田看護福祉大学

## 目 次

|                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 第1章 大学の基本理念 .....     | <a href="#">1</a> |
| 第2章 学生 .....          | 7                 |
| 1. 学生の受け入れ .....      | 7                 |
| 2. 学修支援 .....         | 13                |
| 3. キャリア支援 .....       | 18                |
| 4. 学生サービス .....       | 28                |
| 5. 学修環境の整備 .....      | 32                |
| 6. 学生の意見・要望への対応 ..... | 38                |
| 第3章 教育課程 .....        | 44                |
| 1. 単位認定、卒業認定 .....    | 44                |
| 2. 教育課程及び教授方法 .....   | 46                |
| 3. 学修成果の点検・評価 .....   | 54                |

## 第 1 章 大学の基本理念

### 1) 建学の精神と基本理念

# 真理・調和・実学

本学は「真理・調和・実学」を建学の精神とし、地域社会の発展への貢献を教育研究の目標に、わが国の少子高齢化を支える保健・医療・福祉を担う人材の確保と質の向上に貢献することを目指している。

かつて、秋田県には私立の大学が一つも存在しなかった時代、秋田経済大学（ノースアジア大学の前身）は、経済的な理由によって学ぶ機会を失われてきた有為な青年に対しても高等教育の機会を与え、人材教育をする目的のために設置された大学である。当時の入学者には有職者も多く、社会に役に立つ学問を学びたいという志を持った若者たちがほとんどだった。

この建学の精神は、本県における学祖として、幕藩時代から近代化が進む明治に至るまで、多大な影響を与えた佐藤信淵の教育的な思想、学問の立場と軸をひとつにするものである。また、設置者古田重二良は、佐藤信淵の思想と共に創設にあたって多大な影響を与えた者の一人であった。

真理は、学問の普遍的な原則である。これに対し、調和は、社会とのかかわりでの捉え方である。また、実学は、学問の目的であり、そして学問と社会の橋渡しの実現である。実社会で役に立たない学問は、学問とはいえないのである。

調和は、個の社会的存在である人の和を意味する。それは盲目的従属を意味するものではなく、孔子の論語の「和して同せず」という教えと軸を同じくしている。

真理を追究すれば、時に既存の思想や学説との間で、不調和が生ずる。調和を優先し異説を唱えることが許されないとしたならば、学問の進歩はありえない。新しい発見や新学説などは生まれないのである。

建学の精神も時代とともにあるもので、当初の建学の精神も、時代とともに変遷していかなければならない。そうでなければ建学の精神が、時代から取り残された屍になりかねず、大学の進歩はありえない。建学の精神の解釈に、時代に通じる息吹を吹き込み、新しい境地を開かなければならない。それが経営者の使命である。

創立 60 年を超える学園の歴史の歩みのなかで、この「真理・調和・実学」の精神は脈々と受け継がれてきた。地域の熱い支持とこれに応えた多くの人材がその歴史を支えてきたのである。

本学の経営母体である学校法人ノースアジア大学は、平成 25(2013)年に創立 60 周年を迎えた。これを機に、建学の精神の意味内容を時代の変化に合わせて再認識するとともに、平易な文章で表現することを目的として、「建学の精神を現代に生かす検討委員会」を設置し、検討を重ねた。そして、次のような簡潔な文章にまとめ、広く公開した。

戦後、秋田県には、私立の高等教育機関が存在しなかった。このような社会文化の土壌の中で、地域に役立つ人材の養成を目的とする高等教育機関樹立の要望が地元から湧きあがり、その結果、昭和 28 年に本学園が設立され、建学の精神文化の礎が積み上げられてきたのである。

言い換えれば、地域の土壌に根ざし、真に愛される学園として、地域の実情に適合しながら産業・経済の発展と文化の向上に寄与してきたのである。本学園の原点は、真理を学び、これを基にした、地域ひいては世界の発展に貢献できる人材の育成にある。

それは、実社会に役に立つ学問を身につけ、人として調和のとれた優れた人材の養成を志向することであり、学園の存在の意義と目標はこのような目的に向かって常に成長していくところにある。

「建学の精神を支えるのは学問に向き合う姿勢である」ことを時代の変化のなかで今一度確認するため、新たなスタートのもとで、建学の精神の中心をなす「実学」への取り組みは一層強化された。併せて学問に向き合う姿勢、学問をすることへの情熱が強く求められることとなった。明治維新前夜の卓越した思想家・教育者であった吉田松陰の教育に対する姿勢や、江戸初期の学問の大家であり、多くの門弟をかかえながら終生一町民学者であった伊藤仁斎の学問に向き合う姿勢は、いずれも「実学」を重んじ、社会の役に立たない学問は学問とはいえないと述べている。このような思想は、現理事長が大学の理念を語るときにしばしば触れるところである。建学の精神を基礎として、学ぶ姿勢を重んじる学風が浸透しつつある。本学園は、このような建学の精神を高く掲げ、未来へと受け継ぎながら歩み続けていく。

本学では、このような建学の精神のもとに大学の使命・目的を「秋田看護福祉大学学則（以下、「学則」という。）」第 1 条に次のように明記している。

「秋田看護福祉大学は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）に則り、幅広い教養教育との密接な関連のもとに、保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識と技術をもって社会に貢献できる人材を養成するとともに、独創的で実地的な研究活動を行い、その研究成果を還元することにより、地域社会や国際社会の発展に寄与することを目的とする。」

このような使命・目的を踏まえて、学部、学科ごとの人材育成に関する目的と教育目標を次のように定めている。(学則第6条第2項)

看護福祉学部：幅広い教養教育との密接な関連のもとに保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識と技術を身につけて社会に貢献できる人材を養成することを教育理念・目標とする。

看護学科：生命に対する深い尊厳の心を持ち、対象者がどのような援助を求めているかを正確に把握し、常に向上心を持って適切な看護サービスを提供できる看護職者を養成する。

医療福祉学科：社会福祉学という「知」と「実践」を統合した学問を機軸に、学究の営みに邁進し、共生社会の実現に向けて創造的な提言を行い、自ら行動できる福祉マインドを持った人材を養成する。

## 2) 変化への対応

高齢化のさらなる進行による社会構造の変化を見据え、本学では保健・医療・福祉領域における高度な専門知識と技術を身につけて社会に貢献できる人材の養成を行っている。福祉学科では高度化・多様化する福祉のニーズに対応できる福祉マインドを持った人材を養成してきたが、「福祉」というキーワードには「介護福祉」の印象が強く、地域の高校生や保護者などへ、高齢者施設への就職がイメージされる側面があった。

その中でも、地域から福祉分野において医療機関への就職を希望する声があり、平成21(2009)年から、精神保健福祉士の養成を加え、福祉施設を始め、医療機関にも活躍の場を広げる環境を整備してきた。そして近年は、病院などの医療機関に就職し、医療ソーシャルワーカーや精神保健福祉士として活躍する卒業生も数多く見られるようになった。そこで、本学の教育の特色と強みを明確化し、使命・目的にある保健・医療・福祉領域を担う人材養成を高校生や社会に示すことを目的として、三つのポリシーの一部見直しを行い、令和2(2020)年4月より、「福祉学科」を「医療福祉学科」と名称変更した。同時に医療福祉学科では、入学時および在学中に自由に選択ができるコースについても、「医療福祉コース」「行政企業コース」に名称を変更し、学生の多様な目標に合わせた履修及び支援を進めやすい環境を整えた。さらに、秋田キャンパスに4年間在籍したままで、社会福祉士国家試験受験資格を得られる環境を整備し、秋田市周辺の学生への利便性を確保した。

### 3) 中長期的な計画への反映

本学では、学校法人ノースアジア大学の創設 60 周年を節目として平成 25(2013)年度に「5 か年重点計画」を策定した。同重点計画は平成 30(2018) 年度から第 2 クールを迎えている。この計画は、大学の使命・目的及び教育目的に沿って検討され、その目標を建学の精神、大学の使命・目的及び学科の人材育成の目的を踏まえた教育の質の向上及び教育目標の達成においている。年度ごとの重点項目について、各種の取り組みを誠実に実行するとともに、その成果を継続的に検討し、目標の達成に向けた改善に努めている。令和 2 (2020)年度の本学の重点計画は、次のとおりである

表 1-1-1 秋田看護福祉大学「5 か年重点計画（平成 30 年～34 年度）より」

| 令和 2 年度                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 福祉学科行政・企業コースにおける教育目的の達成状況の点検・評価<br>(2) 臨地実習の評価<br>(3) 入学前プログラムの内容充実<br>(4) 初年次教育の内容充実<br>(5) 国家試験対策チームの活動検討<br>(6) 公務員採用試験対策（福祉行政研究室）の充実<br>(7) 広報戦略の検討（建学の精神と三つのポリシーの理解促進媒体）<br>(8) 行政・企業コースのキャリア支援について検討<br>(9) 社会福祉士・精神保健福祉士の就職枠の拡大と連携強化（病院・法人等）<br>(10) 学生サービスの拡充検討<br>(11) 自己点検評価報告書作成 |

### 4) 三つのポリシー

#### (1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### <看護福祉学部>

秋田看護福祉大学は、建学の精神を基本理念として学則第 1 条及び第 6 条第 2 項の目的と目標の実現のため、次に示す要件を満たす学生に対し、卒業を認定して学位を授与します。

- 1) 幅広い教養と人権や生命の尊厳への深い理解、豊かな人間性を涵養する姿勢を備える。
- 2) 問題をみつけ、論理的・科学的に思考し、解決方法を考える能力を備える。
- 3) 倫理観を持って積極的かつ主体的に行動する能力を備える。
- 4) 専門職者としての知識と技術を身につけ、それらを実践的に統合し、応用する能力を備える。
- 5) 調和の精神に根ざしたコミュニケーションがとれ、多様な人々と協働し責任ある行動をとることができる能力を備える。

#### <看護学科>

- 1) 看護の専門的な知識と技能の基本を身につけ、科学的根拠に基づいた判断ができる。
- 2) 専門職業人としての使命感を持ち、多様な人々と連携し、責任ある行動をとることができる。
- 3) 個人や地域が抱える健康問題の解決に向けて、主体的な取組みができる。

#### <医療福祉学科>

- 1) 学問の基礎的な知識にとどまらず、現代科学が到達した先端技術を身につけ、科学的根拠に基づいて判断することができる。
- 2) 深い人間理解に基づく倫理観・使命感を持ち、人間の尊厳を守ることができる。
- 3) 社会福祉の理念を理解した上で、実社会における諸課題を解決し、地域社会に貢献することができる。

### (2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### <看護福祉学部>

秋田看護福祉大学は、一人ひとりの学生を大切に、「豊かな人間性と知性」を涵養し、「確かな知識と実践力」と「たゆまぬ向上心と創造する力」を育むことを教育目標として掲げています。さらに、卒業後も人を大切にする“こころ”（調和の精神）を持って仕事に励み、人生を生きていく社会人になることを目指した教育課程を編成します。このため学部共通の教育基盤として、豊かな人間性と知性を持ち、調和の精神を養うために、両学科の学生が共に学ぶ「教養科目」「総合科目」を配置します。

- 1) 「教養科目」には豊かな人間性と知性を涵養するための幅広い教養を身につけるための科目を配置する。また、初年次教育として、自らの将来を見据え、主体的な学びや大学の学習方法を理解するための少人数演習による授業を行う。
- 2) 「総合科目」には、専門職として欠かせないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養するための科目、多職種とのパートナーシップを育成するための実践的な演習を取り入れた科目を置く。また、保健・医療・福祉サービスを総合的な視点で学習するための科目を置き、両学科の学生が討論しながら実践的な課題に取り組む教育を行う。

#### <看護学科>

- 1) 「教養科目」「総合科目」と並行して看護学の基盤となる「専門基礎科目」と、看護学の専門性を深める「専門科目」を、学年進行に従い体系的な学習を進めることができるように、初年次から配置する。
- 2) 多様な場における医療を支える優れた看護ケアを提供するために、様々な発達段階や健康レベルにある対象のニーズを把握し、科学的な根拠に基づく判断と支援を提供するための科目を配置する。
- 3) 他の職域スタッフとの連携・協働により、複雑化する保健・医療・福祉のニーズに対応した地域包括ケアシステムを意識し、実践に結びつけるための科目と、

グループ学習やディスカッション、実習室での技術学習等により、コミュニケーションや人間関係作りを体験的に学ぶ科目を配置する。

- 4) 高齢社会に即した看護を実践するための能力を身につける科目や、個人や地域が抱える健康問題を解決するための方法を学ぶ科目を配置する。
- 5) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から、女性の健康問題をとらえ、また妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者の状況を的確に把握し、適切な看護や助産を実践するための科目を配置する。
- 6) 医療施設や老人保健施設、訪問看護ステーション等の地域における様々な実習により、多様な人々との関わりを通して、対象との良好な関係性を築きながら、看護専門職として必要な支援を実践できる能力を身につけるための科目を配置する。

#### <医療福祉学科>

- 1) 医療福祉コースでは、初年次教育については教養科目の「基礎演習」や総合科目の「社会福祉概論」など次年次以降、主体的に学ぶための基礎的な科目を配置する。同時にソーシャルワークの基本科目として、介護福祉士関係の専門科目を配置する。また、医療福祉分野における多職種連携のために、「医療と福祉のマネジメント」「医学一般」「コミュニケーション論」などの科目を配置する。
- 2) 医療福祉コースでは現代社会の抱える問題を社会福祉、精神保健福祉、介護福祉の視点から総合的に捉え、解決に導くための科目を配置する。
- 3) 多様な場における医療福祉を支援するために、高齢者ケア、児童・家庭福祉、精神障害を含む障害者支援など、高齢化や人口減少等、地域の諸課題に対応する科目を配置する。
- 4) 医療保健機関や各種法人、事業所等の様々な実習により、医療や福祉の分野でソーシャルワーカーとして必要な支援を実践できる能力を身につけるための科目を配置する。
- 5) 行政企業コースでは、初年次は「教養科目」「総合科目」のほか、学園内大学・短大との単位互換・科目認定にて幅広い領域の科目を複数配置する。

#### (3) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

##### <看護福祉学部>

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

- 1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- 2) 人権や生命への尊厳の気持ちがある。
- 3) 他者に対する思いやりの気持ちがある。
- 4) 自らの責任において、主体的に学習しようという意欲がある。
- 5) 周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調性がある。



### <看護学科>

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

- 1) 高校の授業における国語、英語、理科（特に生物・化学）、数学を積極的に学び、看護学を学習するための基礎学力を有する。
- 2) 課外活動や委員会活動、ボランティア活動等の経験から他者や状況に応じた柔軟な判断力と思考力を持ち、相手を尊重したコミュニケーションをとることができる。
- 3) 看護学に関心を持ち、保健・医療関係職種との連携・協働を通して、個人や地域が抱える健康問題の解決に責任感を持って取組みたいという意欲がある。
- 4) 常に向上心を持ち、時代や社会の変化を柔軟な思考力と洞察力で捉え、地域社会や国際社会に貢献したいという意欲がある。
- 5) 主体性を持って、課題に最後まで取り組むことができる。

### <医療福祉学科>

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

- 1) 高校の授業における国語、英語、地歴、公民を積極的に学び、福祉学を学ぶための基礎学力を有する。
- 2) 医療や福祉の分野における多職種連携や協働を通して、地域住民の福祉向上に主体性を持って貢献できる能力を習得したいという意欲がある。
- 3) 人間の尊厳と自立に関心があり、人権を真剣に考える誠実さと社会性を備える。
- 4) 課外活動や委員会活動、ボランティア活動等の経験から他者や場面に応じた柔軟な思考力と的確な判断力を併せ持つ。
- 5) 福祉学を中心に経済学、経営学、法律学、観光学、栄養学を幅広く学び、多様な領域で活躍したいという考えを持っている。

## 第2章 学生

### 1. 学生の受け入れ

#### 1) 入学者選抜基本方針の策定と、アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れ

本学では、文部科学省の大学入学者選抜実施要項の見直しによる「大学入学者選抜に係る新たなルール」に基づき、令和3(2021)年度入学試験より、選抜区分の名称変更、出願科目や基準、調査書等出願書類の内容見直しを行った。その上で、本学の入学者受入れの方針（以下、「アドミッション・ポリシー」という。）に沿って、多様な方法による新たな入学試験を実施した。各試験の詳細は以下のとおりである。

### （１）総合型選抜入学試験

総合型選抜入学試験（以下、「総合型選抜入試」という。）は医療福祉学科のみで実施し、本学を第一志望とする志願者の意識・意欲・個性・活動などが本学の教育理念と教育内容にふさわしいかどうかを、面接とエントリーシートに基づく口頭試問、出願書類の審査によって総合的かつ多面的に判断し選抜している。総合型選抜入試については、卒業後、医療福祉分野として病院や社会福祉法人、施設等のほかに、公務員、企業など幅広い分野で活躍する人材の育成という学科の教育方針に基づき、一層多彩な能力をもった人材を受け入れるための選抜方法として採用している。出願にあたっては、志願者によるエントリーシートへの「志望動機」「自分の得意な科目や分野」「高校や社会の中で自分が特に努力したこと、その成果」「大学での学問への取り組み」「将来の希望」の記述とともに、高校のクラス担任に署名・押印を求めている。

### （２）学校推薦型選抜入学試験

学校推薦型選抜入学試験（以下、「学校推薦型選抜入試」という。）は、本学を第一志望とする志願者を対象とする試験である。学校推薦型選抜入試には、指定校推薦入試、一般公募推薦入試、学園内高校（明桜高校）推薦入試がある。指定校推薦入試では、近隣地域の高校や本学への志願者が頻出される高等学校に限定されるため、入試要項以外の別途案内で周知している。

看護学科の学校推薦型選抜入試では、高等学校より提出された調査書、本人直筆のエントリーシートの審査と筆記試験（総合問題や小論文）並びに面接により選抜している。総合問題は基礎学力を測る問題を出題、小論文では読解力や文章表現力を測る問題を出題している。

また、医療福祉学科の学校推薦型選抜入試では、高等学校より提出された調査書、本人直筆のエントリーシートの審査、小論文並びに面接によって選抜している。小論文では、看護学科と同様に読解力や文章表現力を測る問題を出題している。学校推薦型選抜入試においても総合型選抜入試と同様、面接試験を課しており、アドミッション・ポリシーを踏まえて、志望動機、自己 PR、性格、学習意欲、将来目標、アドミッション・ポリシーの理解と合致などの項目を総合して評価している。

### （３）一般選抜入学試験・大学入学共通テスト利用選抜入学試験

本学では各学科の教育目標に適した学力を有するかを判定するために、一般選抜入学試験（以下、「一般選抜入試」という。）及び大学入学共通テスト利用選抜入学試験（以下、「共通テスト利用選抜入試」という。）を実施している。一般選抜入試では、各学科共通必須科目として国語総合、英語のほかに、看護学科は選択科目として、数学Ⅰ・数学 A、生物基礎・化学基礎、生物、化学から 1 科目を選択する計 3 科目、医療福祉学科は選択科目として、数学Ⅰ・数学 A、生物基礎・化学基礎、生物、化学、世界史 B、日本史 B、政治・経済から 1 科目を選択する計 3 科目の成績評価と出願書類の審査により選抜している。共通テスト利用選抜入試では、本学が指定する科目（表 2-1-1）の得点と出願書類の審査を総合して選抜している。

上記以外に多様な学生を受け入れるため、社会人選抜入学試験、編入学選抜試験が

実施されている。

入学者の選抜試験は、教員及び教務課職員をもって組織される入試委員会によって管理・運営されている。入試委員会は入試委員長を責任者とし、試験問題の作成等に関する事項、入学試験の実施に関する事項、学生募集に関する事項などの業務を行っている。また、大学教務課に入試係が置かれ、学生募集の企画・立案や入学試験・入学手続きに関する事項などの業務を行っている。

受験者の合否は、入試委員会が作成した判定資料に基づき、教授会の意見を参考にして学長が決定している。また入試委員会では各入学試験における試験内容と結果から、アドミッション・ポリシーへの適合を含めてどのような学生が受験・合格しているのかを検証し、本学の教育目標等に即した精度の高い入学試験選抜の実施を実現している。

一般選抜入試の試験問題については、大学内で任命された入試問題出題者が独自に作成している。これまでも入試委員長から示された作問上の注意点等を基に、委員長・副委員長を中心とした複数回の確認や検討を重ねて管理を行っていたが、令和2(2020)年度には、より一層厳格化するために、入学試験問題検討会議による入試体制の運用を行い、総合的な検証を開始した。さらに入試問題の適正を上げていくために、入試問題の難易度等についての検討も行っていく。

表 2-1-1 令和 3 (2021)年度入学試験における試験区分と募集内容

| 募集人員と試験科目                 |                 |      |                                                                                                                |        |                                                                                                                                                            |
|---------------------------|-----------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 試験区分                      |                 | 看護学科 |                                                                                                                | 医療福祉学科 |                                                                                                                                                            |
|                           |                 | 募集人員 | 試験科目                                                                                                           | 募集人員   | 試験科目                                                                                                                                                       |
| 学校推薦型選<br>抜入学試験           | 一般公募            | 15   | 総合問題・小論文・面接(集団)                                                                                                | 10     | 小論文・面接(個別)                                                                                                                                                 |
|                           | 明桜高校<br>(学園内高校) | 2    |                                                                                                                | 3      |                                                                                                                                                            |
| 一般選抜入学試験(前期)              |                 | 18   | ◎必須：国語・英語<br>◎選択(1科目)：「数学Ⅰ・数学A」「生物基礎・化学基礎」の2科目を1科目として取り扱う。<br>「生物」「化学」                                         | 6      | ◎必須：国語・英語<br>◎選択(1科目)：「数学Ⅰ・数学A」「生物基礎・化学基礎」の2科目を1科目として取り扱う。<br>「生物」「化学」「世界史B」「日本史B」「政治・経済」                                                                  |
| 一般選抜入学試験(後期)              |                 | 4    |                                                                                                                | 3      |                                                                                                                                                            |
| 大学入学共通テスト利用<br>選抜入学試験(前期) |                 | 8    | ◎必須：国語(近代以降の文章)<br>英語(リーディングのみ)<br>◎選択(1科目)：「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「生物基礎・化学基礎・物理基礎」から2科目選択し、1科目として取り扱う。<br>「生物」「化学」「物理」 | 5      | ◎必須：国語(近代以降の文章)<br>英語(リーディングのみ)<br>◎選択(1科目)：「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「生物基礎・化学基礎・物理基礎」から2科目選択し、1科目として取り扱う。<br>「生物」「化学」「物理」「世界史B」「日本史B」「地理B」「政治・経済」「倫理」「現代社会」「倫理、政治・経済」 |
| 大学入学共通テスト利用<br>選抜入学試験(後期) |                 | 3    |                                                                                                                | 3      |                                                                                                                                                            |
| 社会人選抜入学試験                 |                 | 若干名  | 筆記試験・小論文・面接(個別)                                                                                                | 若干名    | 筆記試験・小論文・面接(個別)                                                                                                                                            |
| 総合型選抜入<br>学試験             | I 期             | —    | —                                                                                                              | 10     | 面接(個別)エントリーシートに基づく口頭試問を含む)                                                                                                                                 |
|                           | Ⅱ 期             | —    | —                                                                                                              |        |                                                                                                                                                            |

## 【入学者選抜における判定方法】

これらの資質を有するかの判断は、資格取得状況、調査書、学力試験と小論文や面接を通じて行います。

## 2) 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

本学では、入学定員の充足のために従来からの強みである「就職率 100%」と「高い国家試験合格率」を掲げ、選ばれる大学づくりを目指し種々の方策を実施している。

また、毎年実施している新入生アンケートの結果に基づき、教育内容の見直しと強化を図りながら質の高い教育による人材育成に取り組んでいる。同時に、目的意識を持った意欲的な志願者を誘引するために、就職支援の充実化を図っている。さらに、学部長が長となり、全専任教員がメンバーとなって学生募集に対する高い意識と情報共有を構築するための入学者募集対策チームを組織している。この入学者募集対策チームは、入試委員会及び教務課入試係と連携し、現状分析と効果的な入学者募集活動を行っている。受験者数及び入学者数を前年度以上に確保することが目標となっている。当チーム会議では、オープンキャンパスや進学説明会での対応とその内容を検証し、

志願状況を把握し共有することはもとより、PR 内容や方向性についても綿密に話し合いが行われ、入学者の受け入れ体制をより充実させるための指針となっている。入学者募集対策チームは全専任教員がメンバーとなっていることから、全学的に協力し、入学者募集活動が実施されている。また、高校への出張授業や高大連携授業を積極的に行うことで、本学に対する認知度を高めている。

このような取組みのなかで、看護学科においては、看護師以外にも保健師や助産師資格を取得しようとする学生が多く入学し、入学者の定員確保を維持している。

医療福祉学科においては、募集体制を強化している他、硬式野球部の設立や、平成 29(2017)年度から秋田キャンパスを設置し、行政・企業コースの設立、社会福祉士の資格取得を可能とする環境の整備を行った。また、医療福祉学科への名称変更に伴い、医療系の科目の充実を行うとともに、民間資格を含む複数の資格取得への支援体制を構築する等の取組みにより、多彩な人材育成が認知されつつある（表 2-1-2）。

表 2-1-2 入学者数と定員充足率

|                               | (2017)<br>平成 29 年<br>度 | (2018)<br>平成 30 年<br>度 | (2019)<br>令和元年度    | (2020)<br>令和 2 年度  | (2021)<br>令和 3 年度  |
|-------------------------------|------------------------|------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 看護学科                          | 60 人<br>(120%)         | 57 人<br>(114%)         | 64 人<br>(128%)     | 57 人<br>(114%)     | 71 人<br>(142%)     |
| 医療福祉<br>学科(うち<br>秋田キャン<br>パス) | 35 人(5)<br>(87.5%)     | 32 人(3)<br>(80%)       | 23 人(5)<br>(57.5%) | 17 人(1)<br>(42.5%) | 29 人(4)<br>(72.5%) |

本学の学生募集で重要なツールとなっている媒体として、毎年作成している大学案内がある。令和 2 (2020)年度に作成した大学案内（2021Guide Book）には、本学の目的・使命、教育目的、求める学生像や、本学の在学生・卒業生のコメントや授業風景等を写真と共に掲載した。この大学案内を持参し、県内の高校約 60 校、県外の高校約 150 校を訪問し、入試委員を中心とした教職員が年 2 回～3 回にわたって進路担当教員等に説明している。しかし、令和 2 (2020)年度は COVID-19 の流行に伴い、秋田県内や近隣の高校を中心に、地域や高校数、訪問回数を限定し、例年よりもコンパクトな高校訪問を実施した。大学案内は、高校単独で行われる進路説明会やホテル集合形式の進学相談会、年間 4 回実施しているオープンキャンパス、大学祭、キャンパス見学対応（希望者に応じて随時対応）等において、入学志願者に対する説明にも活用されており、高校訪問同様に教職員が協力して対応している。

令和 2 (2020)年度は COVID-19 の感染拡大による影響により、高校訪問の規模の縮小の他に、4 月～7 月頃は、業者主催による進学相談会がほとんど開催されず、対面での学生募集活動が実施できない状況が続いた。このため本学では、インターネットやその他の情報媒体を用いた広報活動を充実させるために、これまでの広報担当の他に、

学科ごとに広報室を置き、各学科長が広報室長を務め、活動を強化した。特に広報室では、YouTube を利用した動画制作に力を入れ、コロナ禍で対面での募集活動が制限される中においても、ホームページを通じて本学の取組みを学内外に周知することができた。また学園広報紙、タウン誌、受験雑誌等へ掲載する内容についても工夫を行い、本学の教育により得られた成果等についても可能な範囲で詳しく記載するようにしている。さらにテレビ番組「ノースアジアニュースレター」、テレビ CM による情報発信を行ったほか、本学ホームページの「Today's 看護福祉大」と Instagram をほぼ毎日更新し、本学の学びの内容や特徴をできるだけ身近に感じてもらえるよう学内外に幅広く発信を行っている。

また、アドミッション・ポリシー、選抜方法（学校推薦型選抜入試、一般選抜入試、共通利用選抜入試、総合型選抜入試）等入試の詳細を記載した入試要項を作成し、高校訪問時に配布・説明しているほか、各種進学説明会やオープンキャンパスで配布・説明している。オープンキャンパスでは、個別相談コーナーを設け、各学科の教員と教務課職員が常時対応している。受験生からの入学に関する様々な問い合わせについては、教務課入試係職員が電話、面談、Eメール等で対応する体制を整えている。

看護学科は志願者数の増加を目標に、本学の特色や強みをより強調すると同時に、就職率、国家試験合格率のみならず、その背景にある確かな知識と実践力に加え、命に寄り添う強さと優しさを持った人材育成を伝えている。また医療福祉学科の目指す教育も多様な高校生のニーズを満たすことができるように常に見直しを図っている。

平成 29(2017)年 4 月から開設となった秋田キャンパスでは遠隔講義システムを用いて、大館で開講している福祉の基本となる授業をリアルタイムで受講する遠隔授業のほか、秋田キャンパスでの対面授業に加え、ノースアジア大学・秋田栄養短期大学が開講する幅広い領域の授業科目を、単位互換制度と科目認定の利用で受講できる。当キャンパスの開設により、卒業までの 4 年間を秋田キャンパスで過ごし、幅広い授業内容から自分のスタイルや将来目標に沿った科目を受講することで、学位（社会福祉学）の取得が可能となっている。さらに令和元(2019)年度からは秋田キャンパスに 4 年間在籍して社会福祉士の国家試験受験資格を得ることができる環境を整備した。このように受験生のニーズに応えるよう、常に工夫を図っている。令和 2 (2020)年度の入学人数は減少したが、令和 3 (2021)年度には入学人数が増加し、それに伴い秋田キャンパスの入学人数も増加傾向にある。

以上のように、アドミッション・ポリシーの明確化と周知を図り、その方針に沿った学生の受入れを工夫するとともに、入学定員に沿った適切な学生受入数の確保に努めている。

#### [自己評価及び将来計画]

質の高い教育による人材育成を目指し、目的意識を持った意欲的な志願者を増加するために、アドミッション・ポリシー・教育課程・各種の取組み・教育成果等について、幅広い広報媒体の利用により今まで以上に周知徹底を図る。特に受験生の利用の多い媒体（インターネットや情報誌等）の活用を図ることで、認知度の向上に努める。また受験生から要望の多い、学生生活の様子、サークル活動など学生の様子や秋田キャン

パスでの取組みの特集などを積極的に発信する。さらに学園内高校を含めた高校側との高大連携を推進し、受験生・保護者及び高校教員の認知度を高めて受験につながるよう信頼関係の構築を行っていく。学生募集に係る教育内容についても、法人と連携しながら検討を進める。本学のアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れを今後も継続するために、入試問題についても、より適正な問題を作成できるよう入試問題検討会議の運用を確実に行っていく。

## 2. 学修支援

### 1) 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

本学では、教員及び職員で構成される教務委員会において授業支援の方針や計画を策定し、教職員協働で学修を支援している。「秋田看護福祉大学教務委員会規程」第1条に基づき、教務に関する事項を審議する組織として教務委員会が各学科におかれ、同規程第2条により教務委員会は専任教員及び事務職員をもって組織すると定められている。両学科教務委員会の委員長には各学科長が、副委員長には専任教員1名のほか教務課長、総括アソシエイトマネージャーが任命されている。

本学の学生への学修支援は、看護学科・医療福祉学科の教務委員（教員）により入学前から始めている。総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試で合格し、入学手続きを行った者（以下、「入学予定者」という。）に対し、看護及び福祉に関連した入学前教育プログラムの充実を令和2年度の活動目標に挙げて取り組んだ。このため、まずはプログラムの実施目的を見直し以下に修正した。

- ①入学予定者が、大学入学後の学習内容である医療や看護・福祉の専門的な学習をする上で基礎となる課題に取り組むことで、入学後の学びの基盤づくりとする。
- ②大学の学習の基本となる、自分で調べる主体的な学習の準備段階を形成する。
- ③課題内容を理解し、自分の意見をまとめて表現することで大学での学習の動機づけとする。
- ④本学教員による添削指導を入学前に受けることによって、大学との親和性を形成する。

#### ●プログラム内容

|           |                                                                                   |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 学部共通プログラム | 「新聞記事による事前学習」<br>：学科ごとにテーマを提示<br>①記事の中から専門用語を抜き出し、その意味を記す<br>②記事の感想を1,200字程度で記述する |
| 学科別プログラム  | ○ 看護学科：理系科目（生物、化学）の学習課題<br>○ 医療福祉学科：社会学系科目（政治・経済、社会）の学習課題                         |

●実施スケジュール

|               |                                                                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 令和2年 12月初旬～中旬 | 入学予定者へ課題を郵送（高校クラス担任を通して配付する）                                                |
| 令和3年 2月初旬     | 入学予定者から課題を大学へ返送<br>教務委員（教員）による課題の添削指導                                       |
| 令和3年 2月下旬     | 入学予定者へ添削した課題を返送<br>・入学予定者と高校クラス担任へ入学前プログラム実施に関するアンケート用紙を同封（アンケートは3月中に返送を依頼） |

令和3(2021)年度「入学前教育プログラムアンケート」の結果を表2-2-1に示す。

入学予定者（N=40、回収率100.0%）と高校担任教師（N=23、回収率95.2%）双方から高評価を得ている。

表2-2-1 令和3(2021)年度「入学前教育プログラムアンケート」結果

| 質 問                                                                                 | 入学予定者<br>(N=40) | 高校担任教師<br>(N=23) |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|------------------|
| 1. この入学前教育課題は、 <u>(担任用：生徒が)</u> 今後の大学の授業を理解するうえで役立つと思いますか。                          | 4.63            | 4.43             |
| 2. 今回の入学前教育課題において、生徒が自分で <u>(担任用：生徒が)</u> 調べて主体的に取り組んだと思いますか。                       | 4.65            | 4.39             |
| 3. 今回の入学前教育課題は、あなたにとって大学での学習の動機づけになりましたか <u>(担任用：生徒にとって大学での学習の動機づけになったと思いますか)</u> 。 | 4.60            | 4.35             |
| 4. 今回の入学前教育課題を行うことで、大学を身近に感じましたか <u>(担任用：生徒が大学を身近に感じる事ができたと思いますか)</u> 。             | 4.53            | 4.43             |
| 5. 本学教員の添削指導により、本学教員の存在が身近なものとなりましたか <u>(担任用：生徒は本学教員の存在を身近に感じる事ができたと思いますか)</u> 。    | 4.40            | 4.74             |

注) 数値は回答者の得点平均値

<評価尺度>

5：強くそう思う

4：思う

3：どちらともいえない

2：あまり思わない

1：全く思わない



## ●感想・意見

### 入学予定者

- ・大学で看護学を学ぶ心構えができました。
- ・この度は、添削をしていただき、ありがとうございました。入学までの期間の勉強の参考として活用したいと思います。高校3年間は、オープンキャンパスや進路相談会でたくさんお世話になりました。4月からよろしくお願いします。
- ・まだまだ自分には知識が足りないことを実感しました。そのため入学前に更に勉強に力を入れて取り組もうと意欲の向上につながりました。
- ・主体的に学習に取り組むことができました。
- ・受験が終わった後に、この課題に取り組むことで大学入学後を意識して過ごすことができました。教科書やネットに答えがあるわけではなく、いろいろな方法を駆使してまとめていくのは、大変だったが強いやりがいを感じた。
- ・すべての課題の細かい添削指導により、自分が今後どこに力を入れていけばいいのかを明確にすることができました。ありがとうございます。
- ・入学前に大学の学習を身近に感じることができました。先生方が丁寧に添削指導をしてくださったので、直しをしっかりとしていきます。ありがとうございました。
- ・この課題を通して、新しい専門用語の発見や御校の教員による添削を見て、もっと頑張らなければと思った。
- ・今の自分にとっては難しいテーマでしたが、大学での勉強の意欲が湧きました。
- ・課題に取り組んでいくにつれてこれから専門的に学んでいくことに対しての意欲がより増しました。
- ・これから大学で勉強していくにあたって、大変良い動機づけとなりました。また、私にとっても良い経験となりました。ありがとうございます。
- ・添削によって自分のレポートやまとめにはどんなことが足りていないのかを知ることができました。調べるのが不足していたなと振り返ることができ、どこを伸ばしたらよいか考えるきっかけになってよかったです。入学までの1ヶ月やった方がいいことを見つけられました。

### 高校担任教師

- ・卒業生も含め、いつも大変お世話になっております。今回の課題を拝見いたしました。高校と大学の違い(ギャップ)を入学前に理解できる貴重な機会となると捉えております。厳しい言葉での添削指導も大変ありがたく受け止めております。今後も引き続きよろしくお願いします。
- ・「入学前プログラム」は大変役に立ったと思います。今後ともよろしくお願いします。
- ・今後ともよろしくお願いします。
- ・添削指導で大学の先生方の直筆のメッセージがあると高校生にとって強い刺激になると思います。
- ・非常に丁寧な添削ありがとうございます。私自身も勉強になりました。入学後は生徒が何かとご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします。
- ・今後、大学で学ぶべき科目、レベル、学習に向かう姿勢等、自らが肌で感じられたのではないかと思います。添削いただきありがとうございました。今後のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いします。
- ・入学前からご丁寧に指導していただき、ありがとうございます。4月から不安もありつつ、大学での学びを楽しみにしているようでした。どうぞよろしくお願い致します。
- ・大学の学習の見通しがたったようで、大変ありがたいです。ご面倒だったでしょうが、ご指導いただきありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。
- ・いつもお世話になっております。次年度もよろしくお願い致します。
- ・今回の入学前教育課題は、本人にとって大変勉強になったと思います。新聞を読まない生徒達が多い中、視野の広い内容だったと思います。今後ともよろしくお願い致します。

- ・丁寧に添削指導をしていただき、大変ありがたく思っております。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・高大連携という点で大変有意義な課題であると思います。
- ・課題について添削して頂けることは、生徒にとってとても励みになると思いました。
- ・本人の力のみでしっかりと取り組んでいたようなので、意識づけになっていたと思います。

入学後の学生への学修支援としては、学習面で立ち遅れが見られる学生及び学習意欲のある学生の双方に対して、本学ではクラス担任を中心として、また3年次後期からはゼミナール担当教員とも連携して個別の支援を行っている。

教員間ではもとより職員との情報共有にも努めている。さらに学生の状況を把握し支援するため、毎年複数回実施するクラス担任による個別面談のほか、8月に実施する保護者懇談会などを通じてその情報を蓄積している。1クラスの定員が看護学科50人、医療福祉学科40人であり、クラス担任は1クラスに1～2人配置している。3年次・4年次ではゼミナール担当教員が学生5人前後を受け持つことになるため、クラス担任と協働で学生の支援を行っている。令和2(2020)年度は教務課職員もクラス担任を受け持つ教務課クラス担任制度を設けた。教員と職員が連携しながら、それぞれの立場でより一層学生に対する適切な支援を提供できる体制づくりを行った。教務課クラス担任は、学生の履修や単位修得、国家試験受験資格に係る教務関連、経済面などの相談に教員と連携し支援を行っている。そのほかの支援内容として、授業支援、就職活動支援、資格取得支援、学修・生活相談など多岐にわたっている。また、看護や医療福祉の分野を目指す学生が大多数であることから、障害のある学生を積極的に受け入れ、他の学生の障害に対する理解の促進と学生個々の障害に応じた学修支援と日常生活の支援を合わせて実施している。

本学では原則として週に1回以上のオフィスアワーを設定している。オフィスアワーの時間帯には、専任教員が各研究室で待機し、学生からの学習、学生生活、就職活動その他の相談を受ける体制を整えている。各教員のオフィスアワーの時間帯については学生掲示板やホームページにて周知し、学生が随時把握できるようになっている。

秋田キャンパスではキャンパス長1名と事務職員1名を配置しており、昼休みや授業の空き時間に学生からの相談を受けるなど、学生の個別支援にあたっている。また、秋田キャンパスにおいても社会福祉士の受験資格を得ることができるようになったので、演習や実習指導の授業を中心に、大館の社会福祉士科目担当の教員が毎週2日間は秋田キャンパスに出向いて対面授業を実施している。演習や実習指導以外には、3・4年生のゼミナールを受け持っており、随時学生から相談を受け、就職支援や卒業試験・国家試験等を含めた学修支援を行い、大館の教職員と情報を共有しながら学生の支援にあたっている。

## 2) TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実

本学にはTA(Teaching Assistant)制度はないが、「情報処理演習」ではIT担当職員が教員の教育活動支援を行っている。非常勤講師の教材準備等は教務課教務系の職員が行っている。「基礎演習」では図書館の利用や文献検索の基本の指導を図書館職員が担当している。看護学科の病院、訪問看護ステーション、保健所、市町村等での実習においては、専任教員

の他に実務経験を持つ実習補助者が指導を行い、専任教員を支援している。教員と職員の協働は多くの示唆を与え、お互いの刺激になり、教職員が学生に同じ視点に関わることに繋がっている。

また、学生の履修登録・単位取得への支援についても教職員が協働して行っている。特に資格取得を伴う履修科目の登録は複雑なため、ガイダンスにおける学生全体への説明の他に、教務委員会、教務課職員、クラス担任により、繰り返し説明と相談が行われている。

なお、1年間に履修する単位は、学則第29条第2項及び「秋田看護福祉大学履修科目の登録の上限に関する細則」第3条に、50単位を上限として定められている。国家試験受験資格に係る科目は上限単位数には含めないこととしているが、クラス担任や教務委員会委員が相談に応じ、学生の学修計画が過剰な負担とならないよう指導している。また、上限とする単位数についても、今後のカリキュラム改正の時点で見直しを図る予定としている。

さらに教員の教育活動を支援する体制としては、学生が目指す現場の職員や専門資格を有し、最新の医療や福祉の知識と実践の横断的な学修の場に触れることを目的としたゲストスピーカーの招聘や施設見学などを導入している。

また本学では、中途退学者や学生の留年を防止するために、単位取得状況や生活状況等問題を抱える学生に対して、必要に応じクラス担任や教務委員、学科長が面談を実施し、問題状況の原因を把握するとともに、状況の改善と解決に向けて助言・指導を行い、学生指導記録を作成している。また、面談の結果を教職員間で共有する仕組みとして、学科ミーティングの際に各科目の担当教員からも授業の様子などを報告し合っている。退学を考えている学生に対しては、保護者との三者面談を必ず実施し、学業の継続に向けた改善策を模索しながら対応策を講じている。学生の状況によっては、まずは休学をすすめ、休学中の学生へ定期的に連絡を取り、必要なアドバイスを行うなどして、復学できるよう支援を行っている。平成30(2018)年度～令和2(2020)年度の中途退学、休学、留年者数は、看護学科ではいずれも各年度1～2名、医療福祉学科では0～2名である。中途退学の理由としては、「進路変更」「経済的理由」であった。

#### [自己評価及び将来計画]

学修支援体制の充実のため、教務課クラス担任制度を設け、教員と職員が連携しながら、それぞれの立場でより一層学生に対する適切な支援を提供できる体制づくりを行った。

入学前教育や初年次教育の充実を令和2(2020)年度の活動目標に挙げて取り組んだ。入学前教育では、令和元(2019)年度に修正した入学前教育プログラムの実施目的を反映させた課題を入学予定者へ出題し、その効果を評価するために評価指標としてアンケート用紙の内容の見直しを行い、調査を実施した。結果は概ね高評価を得ているが、今後は初年次教育と合わせて、入学後の学習にどのような影響があったのかを含め、効果の検証をさらに進めていく。

### 3. キャリア支援

#### 1) 本学におけるキャリア支援の考え方

本学で行っているキャリア支援活動は、自身の人生設計を構築するという視点にたった支援活動である。総合型選抜・学校推薦型選抜入試による入学予定者に対し、入学前の段階から入学前教育プログラムに沿って、キャリア支援という視点に立った指導を開始している。入学前教育プログラムでは、看護や医療福祉に関する課題に取り組むことで理解を深め、大学で学問を修めるための準備を促している。

働くことの意識づけ・職業観の確立を図る支援は、低学年から行っている。新入生研修会では、単に内定を得るための就職対策としてではなく、大学生活においてどのように自身の成長を図っていくのか考える機会を設けている。その後、随時クラス担任が個別面談を実施し、大学入学の目的と、その目的を達成するためにどのように大学生活を送るのかを考えさせ、卒業後の進路へ意識を向けさせるよう指導している。

学年進行と学習進度に合わせ、看護や医療福祉の専門知識を段階的に習得するため、講義・演習において豊富な実務経験を持つ教員の授業を受ける。臨地実習では既習の知識を活用し科学的根拠に基づいたケアを実践し、帰納的に学習する。また、実際にその職に就いている人たちから実践的な指導を受け、患者や利用者のケアを実施する。学生の立場ですでに社会人としての態度や行動を求められることになる。そのため、実習を開始する前には、挨拶や身だしなみ、施設職員や患者・利用者等と話す時の言葉の選び方、個人情報保護、倫理的行動などについてオリエンテーションを行っている。臨地実習は学習の場であると同時に社会人としての模擬体験の場でもあるため、学生自身の生き方・働き方を考える良い機会となる。

このように大学における学習の機会をすべてキャリア支援であると考えている。教職員は、このキャリア支援の考え方に基づき学生に対し、クラス担任、ゼミナール担当教員、就職委員会、教務課就職係の四者が連携を取りながら、学生の個別性を重視し、Face to Face のキャリア支援を実施している。

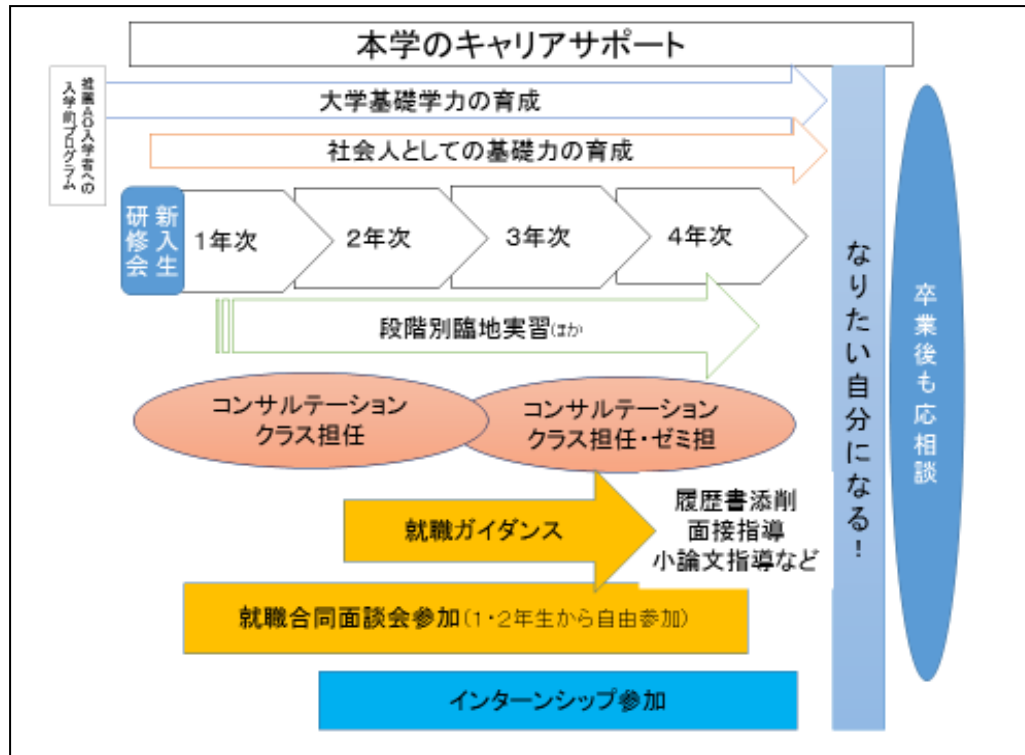


図 2-3-1 秋田看護福祉大学のキャリアサポート

## 2) 就職支援活動

学生の就職活動が本格化する3年生頃からは、就職委員会と就職に関する窓口である教務課就職係が主体となって就職支援活動を行っている。就職試験を受ける学生への面接指導や履歴書の書き方、小論文の指導においては、それまでの大学での学習の成果として学生の職業観について考えさせる。ここでも将来の生き方・働き方を熟考する機会を提供している。学生の就職相談は、クラス担任やゼミナール担当教員並びに就職委員会の教職員の連携のもとで、学生一人ひとりに合わせたきめ細かく丁寧な対応を行っている（図 2-3-2）。

学生の就職活動状況を迅速に把握することは、その後の対応においても非常に重要である。本学では教員（クラス担任、就職委員、ゼミナール担当教員等）と教務課就職係が相互に連携を図りながら、協働で就職活動状況を把握し、迅速な支援を行っている。就職委員会で検討された就職内定状況や学生個別の就職活動状況については毎月学科ミーティングで報告され、クラス担任やゼミナール担当教員以外の教員からの情報提供や学科全体での情報共有に繋げている。

採用試験後には、学生が提出した就職試験報告書をファイリングし、就職資料室で閲覧できるように公開することで、就職活動の参考資料として活用している。就職資料室には、事業所ごとに作成した求人ファイル、就職イベント案内、求人票や就職試験報告書等をコピーするためのコピー機、インターネット環境の整ったパソコンとプリンターの他、進学資料、卒業生からのコメント等を備えており、学生は就職資料室や教務課就職係からの情報を得て、主体的・積極的に就職活動を行っている。

秋田キャンパスの学生については、ノースアジア大学・秋田栄養短期大学のキャリアセンターや資料室を利用し、合同就職説明会へ参加している。また、秋田キャンパス長による個別相談や指導を行っている。さらに遠隔システムを利用した大館の就職ガイダンスをはじめ、各種講座・イベントに参加している。このように、秋田キャンパスの教職員と大館の就職委員会や教務課就職係が連携して就職支援を行っている。

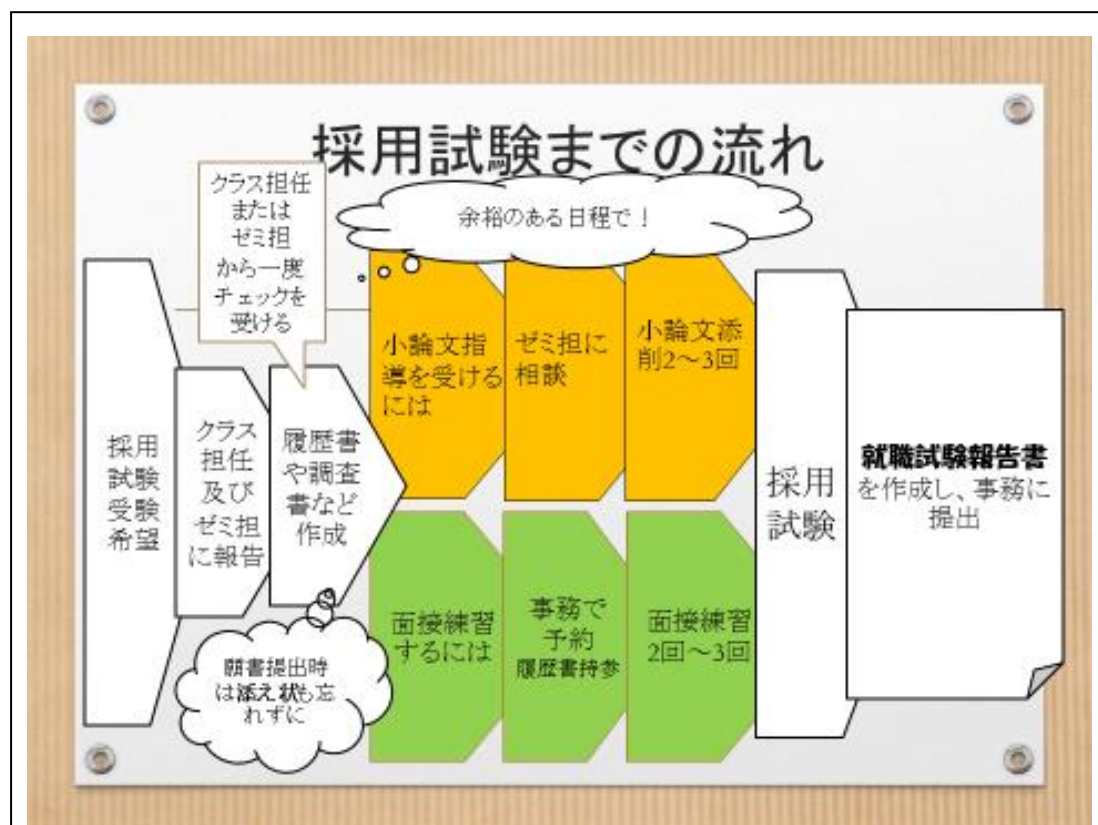


図 2-3-2 秋田看護福祉大学の採用試験終了までの就職支援

### 3) COVID-19 感染拡大の影響下における令和 2 (2020) 年度の就職活動

#### (1) 合同就職面談会の中止

毎年 5 月に本学学生を対象とした合同就職面談会を実施している。この面談会は、学生の就職活動を支援することを目的とし、特に 4 年生は以後の就職活動に直接連動させる機会となること、4 年生以外の学生に対しては職業意識の確立に結びつける機会とすることを目標として行っている。しかし、令和 2 (2020) 年度は COVID-19 感染拡大のため開催中止となった。学生には参加施設のプロフィール集を配布し、就職活動する時の参考とするよう指導した。

#### (2) 就職試験

COVID-19 感染拡大のため、首都圏の医療施設を中心に、可能な場合は WEB 面接による就職試験で受験するよう指導した。COVID-19 感染拡大地域に就職試験を受けに行った学生に対しては、感染対策に十分留意することや、帰宅後 2 週間の自宅での健康観察を指導した。自宅での 2 週間の健康観察によって欠席すると単位に関わる講義や試験は、講義担当教員の協力を得て、感染対策を講じ受講・受験できるように調

整した。また、COVID-19 感染拡大のため、WEB で面接試験を実施する施設が増えたため、WEB 面接対策パンフレット（資料 2-3-1）を作成し、WEB 面接受験時の留意事項などを指導した。また、適切な面接環境を準備できない学生には、大学会議室など面接環境を提供できるように教務課就職係と協力し準備した。



# WEB 面接対策！～心得ておくべき 10 か条～

資料 2-3-1

## 【対策1】『採用側の使用アプリを確認しよう』



無料：Skype、Google ハングアウト、  
Whereby、Zoom、Chatwork・・・  
有料：インタビューメーカー、V-CUBE、  
Facehub、playse、HARUTAKA・・・

☆基本的には、採用側の指示に従ってダウンロードと活用をすれば問題はありません。

## 【対策2】『本番と同じ環境でテストしてみる』

細かな表情やしぐさは伝わりにくい反面、コミュニケーションや話す内容が逆に重視される傾向にあります。

通話が途切れることのないよう環境の確認とテストをして、客観的に自分の声がどのように伝わっているのかを確認しておくことも必要です。



## 【対策3】『背景の整理整頓と雑音が入らない場所』

WEB 面接を行う場所は、基本的には自室で行います。部屋の背景にある物をきちんと整理するほか、掲示物も印象低下を招くおそれがあるものは剥がしておく必要があります。

また、携帯の電源を切り雑音が入らないよう注意をしましょう。家族が居る場合の協力も大切です。窓を閉めて屋外や車からの騒音対策をするほか、面接中に宅急便や友人などの来客が来ないように配慮しておくことは当然といえます。WEB 面接は原則、一人で受けるものということを忘れないでください。



## 【対策4】『好印象を与える身なりを心がける』



対面した面接に比べて緊張感が欠ける要素がある WEB 面接。しかし逆に取り柄のない、平均的な印象は採用に繋がりにくいとも言えます。

しわが目立つシャツ類、男性ではヒゲが残っていたり、整容が乱れている外見にならないこと。女性はナチュラルメイクを基本として、髪形も派手な印象につながらないように、リクルーススタイルであることに配慮が必要です。

最近では解像度の高いカメラやスクリーンもありますので、決して気を抜かないでください。



## 【対策5】『アカウント名とプロフィール写真に注意』

意外に見落としがちなのが、アカウント名があだ名や呼び名になっていたり、プロフィール写真（画像）が普段の何気ないものとなっていることがあります。芸能人の写真やキャラクターになっているものは論外です。



## 【対策6】『カメラの角度に気を付けよう』

パソコンのカメラはもとより、携帯電話を使用する場合を含めて、カメラをのぞき込むような角度になった場合は、面接官は見下ろされているという錯覚になります。

面接中は、どうしても画面を見てしまいがちになりますが、基本的には話すときも、聞くときもカメラを見てコミュニケーションをとらなければ、相手を見ていることにはなりません。



## 【対策7】『聞き取りやすい声と大きさを心がける』



パソコンや携帯電話との距離にもよりますが、声の大きさを適切に保つことや、聞き取りやすいようにハッキリと発音する意識が大切です。

相手の話や質問に対しても、時よりうなずくなど、コミュニケーションの基本を覚えておこう。

## 【対策8】『面接を受ける時の姿勢を意識する』

猫背になることで声がこもりがちになり、表情や姿勢から印象ダウンにつながる危険性が増します。身振り手振りは決して否定はしませんが、くれぐれも過度にならないよう、自分の癖を含めて注意します。

面接の始まりには、『自己紹介と本日はよろしくお願ひいたします』、終わりには、『本日はありがとうございました。失礼いたします』を伝え、おじきもカメラの映像からはみ出ることのないよう、注意しましょう。



### 【対策9】『笑顔や表情を豊かにする』

対面と同様に、基本的には笑顔（微笑む）で臨みます。  
表情がこわばっている（過度な緊張）状態ではなく、あくまでも自然体でありながらも表情を豊かにする意識を持ちましょう。



### 【対策10】『お礼のメッセージを送る』



面接終了後には、手紙かメールでお礼のメッセージを送ると好印象に繋がる場合があります。

面接官と直接会えないからこそ、感謝の気持ちや「この会社に入りたい」という熱意を伝えられる手段は大いに活用しましょう。

メールや手紙のルールも忘れずに！

☆ 実際の対面型の面接と気を付けることは異なると考える就活生も多いかもしれませんが、本質は同じです。適度な緊張感は必要ですが、決して過度になることはありません。

余裕を持った準備と対策をして、良い意味でのリラックスした気持ちで、自分の良さを伝えましょう。

### （３）インターンシップ

早期からの就職意識を高めるため、学生にはインターンシップへの参加を促していたが、令和２（2020）年度は COVID-19 感染症拡大のため、県外地域への移動は極力控えるように指導した。就職活動は、ホームページや就職資料室にある資料集で情報収集するよう指導し、WEB による見学やインターンシップ参加を奨励した。今までは、見学会やインターンシップの場合、施設に直接出向いて行う場合のみ、報告書の提出を義務づけていたが、WEB による見学会やインターンシップが増えたことから、WEB によるインターンシップや見学会も報告書を提出する事を指導した。

COVID-19 感染予防のため、不要不急の県外地域、特に感染拡大地域への移動は自粛とし、感染拡大地域から帰って来た学生には２週間の自宅での健康観察を指導するなどの対策をとった。就職試験受験による COVID-19 感染症発症者は出ず、就職を希望する学生全員が就職することができた。

### （４）就職ガイダンス

就職活動への積極的な参加、働くことの意識づけ、職業観の確立を目的に、平成 24(2012)年度後期から３年生の時間割に「就職ガイダンス」の時間を設けている（表 2-3-1）。令和２（2020）年度は就職ガイダンス第６回で、職業安定法に基づき個人登録票の記入を指導した。個人登録票に記載する項目は、履歴書やエントリーシートに記載する内容のもととなる。個人登録票に記載する際には、大学生活の成果を確認できる機会とし、自己の職業観を熟考させる。また適性や進路の方向性を考える機会を設け、主体的に就職活動に向かう姿勢を持てるように指導を行っている。

ガイダンスは教職員、先輩学生以外にハローワーク職員など学外講師の協力と支援のもとで行われており、就職を希望する施設の志願に至るまでの過程における様々な支援を受ける環境が整備されている。さらに、就職ガイダンスでは将来魅力的な一職業人として働いていくために、大学で何を学ばなければならないのかを考える機会を持たせるため「職につくこと」と題して学内の教員を講師に講話を行っている。また、卒業生による講話の時間も設け、国家試験と就職活動の両立や、どのように就職を希望する施設を決定したのか、また実際に社会に出て働いた経験談を聞き、４年生となる自身がどのように目標を達成させていけば良いか具体的に考えることができる。また将来の自分と重ね合わせ、働いている自分を想像する機会を持たせている。

秋田キャンパスの学生は、ノースアジア大学や秋田栄養短期大学のキャリアセンター主催の就職ガイダンスに出席することができるが、大館の就職ガイダンスでなければ受講できない回（第５回「４年生内定報告会」第７回「職に就くこと」、第８回「卒業生講話」）は、遠隔講演を行っている。

表 2-3-1 令和 2 (2020)年度後期 3 年生「就職ガイダンス」の内容（1・2 年生は希望者が受講）

| 回数 | 内 容                           | 担当者                                                                  |
|----|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1  | 就職ガイダンスの説明（2・3 年生）<br>就職活動の流れ | 就職委員会委員長 工藤優子<br>教務課就職係 田村夏実                                         |
| 2  | 就職ガイダンス<br>応募書類の書き方           | ハローワーク大館<br>畠沢 貢氏                                                    |
| 3  | 就職ガイダンス<br>講座「小論文の書き方」        | マイナビ<br>安齋 輝氏                                                        |
| 4  | 就職ガイダンス<br>講座「自己分析」           | マイナビ<br>安齋 輝氏                                                        |
| 5  | 4 年生内定報告会                     | 看護学科 4 年生：6 人<br>福祉学科 4 年生：5 人                                       |
| 6  | 個人登録票下書き                      | 就職委員長 工藤優子<br>就職副委員長 林 宏二<br>教務課就職係 田村夏実                             |
| 7  | 就職ガイダンス<br>「職に就くこと」           | 看護学科：渡邊 知子教授<br>福祉学科：林 宏二 助教                                         |
| 8  | 就職ガイダンス<br>卒業生講話              | 看護学科：秋田大学医学部附属病院<br>成田 和歌子氏<br>福祉学科：社会福祉法人<br>大館圏域福祉会 神山荘<br>菅原 良太 氏 |
| 9  | 就職ガイダンス<br>身だしなみ講座            | 洋服の青山<br>菅原 春樹 氏<br>大山 咲 氏                                           |
| 10 | 就職ガイダンス<br>講座「面接の仕方」          | ハローワーク大館<br>畠沢 貢氏                                                    |
| 11 | 就職ガイダンス<br>模擬面接               | ハローワーク大館<br>畠沢 貢氏<br>丸岡 裕子氏                                          |

平成 26(2014)年度から就職ガイダンスの項目毎にアンケートを実施しガイダンスの評価をしている。令和 2 (2020)年度のアンケートでは、ガイダンスの内容が自身の就職活動に有効だったと回答した学生は毎回 76.8～97.6%であった（表 2-3-2）。自由記載欄には「就職試験までの流れや、そこまでのサポートが多くあることが知れて良かった」「就職に対する意識が強まった」「自己分析、自分自身をよく知っておくことがとても重要であると学んだ」「楽しく講話を聞く事ができた」「先輩（4年生）方の就職への対策についてたくさん学ぶことができて良かった」「将来のことや自分が何をしたいのかしっかり考えて就職したいと思った」「（卒業生のお話）自分により近い立場の人からお話を聞けて良かった」等、就職に関しての学びや感想が述べられており、有意義な就職ガイダンスとなった。また、学生の疑問に対しては、翌週の就職ガイダンスの時間及び掲示を利用して回答し、疑問の解消を図った。要望などについては、翌年度へ向けて改善策を検討していく。

表 2-3-2 令和2年度 就職ガイダンスアンケート

| NO | 内容                                                 | 有効と答えた<br>学生数 | 出席数 | 割合    |
|----|----------------------------------------------------|---------------|-----|-------|
| 1  | 就職委員長講話(成績発表終了後)<br>キャリアサポートとは(就職活動の流れ)            | 83            | 85  | 97.6% |
| 2  | 就職ガイダンス 応募書類の書き方<br>(ハローワーク)                       | 79            | 81  | 97.5% |
| 3  | 就職ガイダンス 講座「小論文書き方」(マイナビ)                           | 74            | 80  | 92.5% |
| 4  | 就職ガイダンス 講座「自己分析」(マイナビ)                             | 70            | 85  | 82.4% |
| 5  | 4年生内定報告会 看護学科・医療福祉学科                               | 76            | 81  | 93.8% |
| 6  | 個人登録票下書き                                           | 74            | 80  | 92.5% |
| 7  | 就職ガイダンス「職に就くこと」<br>看護学科 渡邊 知子 教授<br>医療福祉学科 林 宏二 助教 | 71            | 83  | 85.5% |
| 8  | 就職ガイダンス 卒業生講話（各学科卒業生）                              | 67            | 76  | 88.2% |
| 9  | 就職ガイダンス 身だしなみ講座（洋服の青山）                             | 65            | 71  | 91.5% |
| 10 | 就職ガイダンス 講座「面接の仕方」(ハローワーク)                          | 61            | 73  | 83.6% |
| 11 | 就職ガイダンス 模擬面接(ハローワーク)                               | 53            | 69  | 76.8% |

注) 令和 2 年度の就職ガイダンス内容についてのアンケート（秋田キャンパス学生を除く）

#### [自己評価及び将来計画]

COVID-19 感染拡大による影響を受け、学生の就職活動の方法やキャリア支援の内容にも工夫を必要とした令和2(2020)年度であったが、最大の目標である就職率100%を達成できた。また、初めて卒業生を出した秋田キャンパスの学生についても、ノースアジア大学や秋田栄養短期大学のキャリアセンターと連携しながら、希望する就職先に全員就職することができた。今後も秋田キャンパスの教職員と連携し、医療福祉学科の就職枠の拡大を目指す。

また、引き続き高い就職率を維持していくためのキャリア支援を大学教育の一環として捉え、組織的な活動を継続する。自身の人生設計を熟考し、職業観を確立できるように大学における各分野の学習の更なる充実を目指す。就職ガイダンスの各回のアンケート結果は概ね良好であったため、今後も各項目内容をさらに充実させると共に、教育課程内への配置を目指す。COVID-19 感染症の収束は来年度も不透明である。感染の拡大は予測が困難であり、学生の就職活動は教職員が協力し柔軟に対応していく。

## 4. 学生サービス

本学では、学生サービス及び厚生補導のため、学生委員会、教務課学生係、秋田看護福祉大学教育指導室、保健室等が設置されており、これらの組織がそれぞれの役割を果たすと同時に連携し、学生が快適な学生生活を送るための支援を行っている。

### 1) 学生委員会

学生の文化・体育の向上、学生生活の充実を図るために組織されている学生会(学生の自治組織)では毎年、新入生歓迎会、体育祭、大学祭、卒業を祝う会等について、学生が主体となって運営を行っている。このため学生委員会では、各行事の企画・運営について物心両面からサポートを行い、学生間及び教職員と学生との親睦の機会になるよう努めている。大学祭は地域交流を促進する場にもなっており、実施にあたっては、学生会を中心に、学生委員会及び全教職員が準備から実施までを協力して行っている。

学生委員会では、このように学生や学生団体が学内外で行う諸活動に対する支援を行う他に、学生の福利厚生および経済支援に関する事項、その他学生生活全般の支援に関する事項を審議している。

### 2) 教務課学生係

学生サービス全般を取り扱う教務課学生係では、学生の教育相談、課外活動、学生の福利厚生施設の整備と管理・利用、学生の健康診断及び身上相談、日本学生支援機構その他の奨学金、学生貸付金、保健室の管理運営等を担当している。教務課学生係の職員が学生委員会にも所属し、教員と職員が連携し、学生サービス全般に対する支援を行っている。

### 3) 教育指導室

本学園には、学生の教養と学識を修め、高い人格を育むこと、学生が快適に学生生活を送ることを目的に、教育指導部が設置されており、本学にも分室に当たる秋田看護福祉大学教育指導室を設置している。その指導内容としては、日常における挨拶や学内美化の意識醸成、授業の受講マナー、服装・頭髪・装身具、学内禁煙や交通マナー等、様々な指導を行っている。低学年時より学外実習に多くの学生が出向く本学では、入学時より、挨拶や身だしなみ、対人マナー、倫理的行動などの指導に気を配っている。また、経済的な問題や対人関係、学修の継続を含めた学生生活に関する様々な悩みを抱える学生への対応についても、教育指導室とクラス担任やゼミナール担当教員、教務課職員が、個人情報に留意した上で情報共有を図りながら支援する環境を整えている。

### 4) 学生課外活動への支援

本学では、課外活動を通して豊かな人間性を身につけ、友人との交流を深めると同時に、地域との交流を推奨し、より充実した学生生活を送れるよう支援を行っている。学生会は学生が課外活動を積極的に実践できるよう、クラブ・サークル活動、新入生歓迎会、体育祭、大学祭、卒業を祝う会などを中心となって企画している。これらの活動に対し大学側は、学生委員会と教務課学生係が連携し支援を行っている。

令和2(2020)年度のクラブ・サークル活動については、18の団体(表2-4-1)が活動しており、各部・サークルにはその活動の助言及び補助役を担う教員1名を顧問として配置している。また、部室(クラブハウス棟)・施設・設備の貸与をはじめ、活動実績や内容についてのヒアリングをもとに予算計上を行い、支援や助成を行っている。

COVID-19感染拡大状況を受け、令和2(2020)年度の行事については、体育祭、卒業を祝う会を感染防止のため中止とした。大学祭は感染対策に留意し2日間開催したものの、1日のみを一般公開とした。また、サークル活動についても、学外との交流試合や地域住民との活動は、例年に比べかなり縮小することとなった。しかし、制限された中でも大学や周辺地域にCOVID-19感染症を発症することなく、ある程度の活動を行うことができた。

表 2-4-1 令和 2 (2020)年度学内団体一覧

|     |                      |     |              |
|-----|----------------------|-----|--------------|
| 文化局 | 地域交流サークル             | 体育局 | 硬式野球部        |
| 文化局 | 軽音サークル               | 体育局 | バレーボールサークル   |
| 文化局 | 吹奏楽サークル              | 体育局 | バスケットボールサークル |
| 文化局 | 手話サークル               | 体育局 | 陸上サークル       |
| 文化局 | B 愛 STAR ピアサークル      | 体育局 | フットサルサークル    |
| 文化局 | 文芸サークル               | 体育局 | ダンスサークル      |
| 文化局 | Cotton Candy（手芸サークル） | 体育局 | ソフトテニスサークル   |
| 文化局 | アカペラサークル             | 体育局 | 軟式野球サークル     |
| 文化局 | 写真サークル               | 体育局 |              |
| 文化局 | 茶道サークル               | 体育局 |              |

## 5) 保健室

本学では学校保健安全法に基づく定期健康診断を、全学生を対象に定期的に実施している。また、検査結果に異常所見がある学生に対しては、再検査の受診を勧めるとともに、学校医や病院を紹介している。また、防疫対策については、COVID-19 感染症やインフルエンザ等の疾患の予防方法を直接指導したり、学生掲示板を利用して周知する等の適切な対策をとっている。

保健室では、担当職員が上記の対応を含め、随時健康相談、健康診断や予防接種の相談等に関する様々な支援を行っている。健康相談については、月曜日から金曜日の終日にわたって担当職員に気軽に相談できる体制をとっている。また、看護師・保健師の資格を有する教員が必要時対応に当たり、応急処置や医療機関の受診等の相談に乗っている。心的相談の対応が難しいケースでは、医療福祉学科の精神保健福祉士資格を有する教員等が保健室と連携して対応している。

## 6) 奨学金支援制度

本学学生が利用できる奨学金には、本学独自の奨学金の他、日本学生支援機構の奨学金や法人、県、市町村、病院等が設立主体となる多くの奨学金等があり、安定した学生生活の維持を図る上では欠かせない支援制度になっている。また、病院の奨学金については、就職先の内定獲得につながる人が多いという特徴を持つことに加え、開始時期が弾力的になっていることが多いことから、必要な学生の利用につながるよう紹介している。教務課学生係では、これら各種奨学金利用に関する情報提供や返済手続きに関する説明会等も行っており、学生の奨学金の返還に関する責務に係る指導も行っている。

## 7) 学生相談

本学の特徴でもある少人数教育を生かして、1人1人の学生へのきめ細かな相談支



援を行っている。クラス担任やゼミナール担当教員、教務課学生係、保健室等、全教職員が連携を図り、学生の様々な悩みに対して気軽にどこにでも相談できる体制を整えている。また、「クラス担任指導マニュアル」に沿って、入学時から卒業時まで原則同一のクラス担任による定期的な面談や、必要に応じた学生生活全般に関わる相談や指導を行っている。また、学業成績が一定水準に達していない学生や、出席不良者への対応、経済的な問題を抱える学生についても、その改善に向け、学習面での個別指導や保護者を含めた情報提供等をゼミナール担当教員や教務課職員と協力して行っている。このように保護者とも連携した四者一体となった支援を行うなど、本学の少人数教育の特徴を生かした体制を構築している。

科目担当教員への相談窓口の一環として、週1回以上の「オフィスアワー」を設け、学期ごとに「オフィスアワー一覧表」を掲示し、ホームページにも掲載して、開かれた学生の相談の時間としている。また、授業や実習等のない時間は多くの教員が研究室に在室しており、オフィスアワー以外の時間であっても、いつでも学生が相談できる体制をとっている。

ハラスメント対策については、ハラスメント防止委員会が組織され、相談窓口と相談員を設置している。学生便覧や掲示板で公表し、新入生研修会で学生委員長から説明する等、相談体制を整えている。令和2(2020)年度の相談件数は0件であった。

## 8) ボランティア活動

学生の地域への社会奉仕活動についても積極的に支援を行っており、本学の地域貢献事業への参加者募集やボランティア派遣依頼等の情報提供については、教務課学生係が担当しており、ボランティア活動を掲示募集し、活動への参加を促している。このように、学生の地域への社会奉仕活動については、社会のしくみや医療・福祉の現場、地域住民の生活を直に知る機会につながり、学生にとっての将来の人間形成における糧となるととらえている。学生のボランティア活動は、教育的な側面からも極めて有益なものであり、課外活動としても推奨している。

## 9) 学生の安全の確保

学生の事件・事故等の有事に係る連絡体制については、本学の「安否確認メールシステム」を活用している。令和2(2020)年度も、全学生を対象に災害時等の緊急連絡用メールアドレス登録を行った。今後は、COVID-19感染対策のためにも、本システムの活用が必須になっていくものと考えている。

新入生研修会では、地元警察署主催の交通安全講習会や犯罪対策講座を実施した。また、「大規模地震発生マニュアル」や「火災発生時対応マニュアル」を学生及び教職員全員に配布し、学生の安全対策に努めている。一方で、毎年1回行っている全学の避難訓練については、COVID-19感染拡大により令和2(2020)年度は実施を見送った。

### 【自己評価及び将来計画】

COVID-19感染拡大により、一部の行事や活動の中止・縮小はあったものの、概ね学生サービスに係る必要な対応を実施できた。修学に困難を抱える学生への支援につい

ては、安定した学生生活に必要な不可欠なものであり、引き続き教職員一丸となって支援を継続していく。

本学では近年、障害のある学生の受け入れも積極的に行っていることから、障害のある学生への支援については、学生生活全般における合理的配慮の検討を教務委員会等と連携して対応していくことが課題である。今後は、「障害学生支援マニュアル(仮称)」の作成等を目指し、障害学生に対する学生相談の充実を図る等の検討を行う。

## 5. 学修環境の整備

### 1) 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学は、大館市の中央部に位置し、JR 大館駅から徒歩約 10 分という利便性の高い場所にある。校地面積は 40,669m<sup>2</sup>、校舎面積は 13,125.96m<sup>2</sup> であり、大学設置基準上必要な面積（設置基準 校地：3,600 m<sup>2</sup>、校舎：4,759.6 m<sup>2</sup>）を満たしており、同基準第 34 条の「校地は、教育にふさわしい環境を持ち、校舎の敷地には、学生が休息その他に利用するのに適当な空地を有するものとする」との基準も十分に満たしている。

（秋田キャンパス校地はノースアジア大学・秋田栄養短期大学と共用：133,255.430 m<sup>2</sup>、同キャンパス校舎はノースアジア大学・秋田栄養短期大学と共用：10,701.960 m<sup>2</sup>、ノースアジア大学と共用：770 m<sup>2</sup>の計 11,471.960 m<sup>2</sup>）

講義室は大教場 1、中教場 2、小教場 5 の合計 8 室あり、その他に LL 教室、実習室、OA 教室などがある。小教場への固定プロジェクター設置・ワイヤレスマイク設置、講義室照明設備の LED 化、実習室ブラインドの交換等を行い、講義環境向上を図っている。実習室は看護学科が使用する基礎看護実習室、成人・地域看護実習室、小児・母性看護実習室、医療福祉学科が使用する家政実習室、介護実習室、入浴実習室があり、その他に実験実習に使用する自然系実習室がある。これらの実習室には看護・助産、介護等の実習・演習で用いる設備・機器が備えられており、必要な用具・消耗品等毎年計画的に購入し、技術修得のための授業や学生の自主学習で使えるよう整えている。なお、各講義室や実習室については入学定員である看護学科 50 人、医療福祉学科 40 人が学習を行うための十分な広さと各基準に即した施設設備を整えている。

演習室が 10 室あり、両学科のゼミナール形式の授業（基礎演習、研究方法論Ⅱ、看護研究、ゼミナールⅠ・Ⅱなど）に使用している。空き時間は事前の申し込みにより個人やグループの学習スペースとして活用されており、定期試験期間や国家試験前の数ヶ月は 10 室全てが常時利用されている状況である。その他、附属図書館以外の学習環境として、教場や実験室、学生食堂、ラウンジのスペースを提供している。

クラブハウス棟は教室棟から体育館を繋ぐ間の場所にあり、学生会、文化局・体育局サークルが使用している。体育館は授業やサークル活動等で使用しており、体育館排風機交換工事を行い、利用環境の改善を図っている。テニスコート 2 面が体育館に隣接しサークル活動等で使用している。OA 教室、就職資料室、附属図書館閲覧室にはパソコンが配備され、図書館では Wifi 設備の増強を行い、インターネットの利用機会の拡大を図っている。

敷地内は樹木や芝をはじめとした緑地部分も多く、常に手入れが行き届いている。

体育館やサークル棟、自転車駐輪場所周辺は、学生たちが行き交う遊歩道が整備されており、所々にベンチが配置されている。また、校舎外観や劣化等も常に担当職員や管理会社の警備員が見回りを行い、必要に応じて修繕を施しており、正面レンガタイルの整備等を行った。このような対応等を通じて、整備が行き届いている校舎と広々とした緑溢れる敷地の中で学修ができる環境を整えている（図 2-5-1）。



図 2-5-1 キャンパスマップ

施設・設備の日常的管理については教務部教務課総務係が担当し、外部業者に委託して点検を実施しているほか、本学に常駐している管理会社の警備員が1階の管理室から、演習室10室を除く全ての教室等の空調管理も行っている。防火設備、消防設備、エレベーター、電気設備、給排水設備等については、法令に基づく点検と検査を行って安全性を確保している。点検結果を踏まえ、防火扉や自動火災報知設備等の修繕対応を行った。警備体制については、管理会社の警備員が24時間体制で対応している。本学は大館市の中心部に位置しており、地域の避難場所としても指定されている。

秋田キャンパスは、ノースアジア大学敷地内にある40周年記念館に事務室と教室を設置し、種々の施設をノースアジア大学や秋田栄養短期大学と共用利用している。学生相談や各種届出対応を行う秋田キャンパス事務室をはじめ、教員研究室、学生自習室、中教室1と小教室2の計3教室のほか、総合体育館、図書館、総合グラウンド等についても利用可能である。加えてノースアジア大学内の国家試験等センター・キャリアセンターの利用、スクールバスによる通学、学生駐車場の利用も可能な環境を整えている（図 2-5-2）。



図 2-5-2 秋田キャンパス マップ

## 2) 実習施設、図書館等の有効活用

### (1) 実習施設

看護学科では、病院や施設での実習として、1年次の早期体験実習、2年次の基礎看護学実習、3年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、老年看護学福祉実習、在宅ケア実習、4年次の高齢者・精神地域実習、統合実習を行っている。また助産師科目履修者については、4年次に助産学実習Ⅰ・Ⅱを行っており、保健師科目履修者については、市町村や保健所等にて4年次に公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱが行われている。

病院実習は、地元の大館市立総合病院をはじめ、大館市立扇田病院、秋田労災病院、東台病院、能代市の JCHO 秋田病院や能代厚生医療センター等で行っている。施設での実習は、地元の福祉施設を中心として水交苑、神山荘、つくし苑、長慶荘、山舘苑、成寿苑等で行われている。また、大館社会福祉協議会や大館訪問看護ステーション等の訪問看護ステーション、認知症高齢者対応グループホーム等多くの施設で行われている。保健所と市町村での実習は、大館保健所、北秋田保健所、能代保健所、秋田中央保健所、大館市、鹿角市、北秋田市、能代市、三種町、八峰町、男鹿市、潟上市、井川町、八郎潟町、五城目町等で行われている。

医療福祉学科では、介護実習、ソーシャルワーク実習、精神保健福祉援助実習が行われている。主に、介護実習は特別養護老人ホームや介護老人保健施設等で、ソーシャルワーク実習は福祉事務所、社会福祉協議会、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、医療機関等で、精神保健福祉援助実習は福祉事務所、社会福祉協議会のほか医療機関等で行っている。

両学科ともに年間2～3回程度の実習指導計画委員会（看護：看護実習指導計画委員会、医療福祉：介護実習等指導計画委員会）を開催し、所属学科専任教員と事務職員

による実習指導計画や実習要項の検討等を行い、実習に関する情報共有が行われている。さらに、病院や施設等の指導担当者を交えた実習指導担当者連絡会議（看護：看護実習指導担当者連絡会議、医療福祉：介護実習等指導担当者連絡会議）を行い、各実習の適正かつ円滑な運営を図っている。

## （２）附属図書館

附属図書館の面積は 704m<sup>2</sup>である。学生閲覧室（座席 100 席）、教職員閲覧室 2 室、視聴覚資料室、書庫、事務室、館長室を有する。職員は附属図書館長（兼任）および職員 3 人（そのうち司書 1 人）である。

令和 3 (2021)年 3 月 31 日までの登録蔵書は 48,527 冊、令和 2 (2020)年度の増冊分は 1,329 冊である。OPAC(On-Line Public Access Catalogue)：所蔵目録検索システムおよび文献オンラインデータベース（医学中央雑誌、メディカルオンライン、官報、最新看護索引 web）を導入している。

- ① 年間入館者：令和 2 (2020)年度 22,881 人
- ② 開館時間：平日は午前 8 時半～午後 7 時、土曜日は午前 9 時～午後 5 時である。
  - ・ 定期試験開始 1 週間前から試験期間中は開館時間を延長し、学生の利用への便宜を図っている。
  - ・ 夏季、冬季、春季の学生長期休業中は開館時間を短縮している。ただし、夏季休業中、学生の実習期間に合わせて、開館時間を延長している。
  - ・ 令和 2 (2020)年度の開館日数は 254 日である。
- ③ 利用者：本学の教職員、本学の学生、本学の卒業生、および附属図書館長の許可を得た者（一般利用者）としている。令和 2 (2020)年度は、COVID-19 感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令以降、4 月 17 日より一般利用者の利用を停止した。4 月 16 日までの一般利用者は 3 人である。
- ④ 文献複写：ILL(Inter Library Loan) 図書館間相互貸借システムにより行っている。令和 2 (2020)年度の学外への文献複写依頼は 137 件であり、学外からの複写依頼は 411 件（大学図書館 395 件、その他の機関 16 件）である。
- ⑤ 雑誌：継続学術雑誌は、共通教養和雑誌 14 誌、看護学科和雑誌 44 誌、医療福祉学科和雑誌 30 誌、看護学科洋雑誌 2 誌、医療福祉学科洋雑誌 1 誌である。
- ⑥ 新聞：全国紙 3 紙、地方紙 5 紙である。在学生への地元情報提供サービスとして、近県の主要新聞(青森県、岩手県、山形県、宮城県)を購読している。

附属図書館には医療・看護・福祉分野の専門図書が充実しており、そのため、在籍している学生だけではなく、本学（短期大学含む）卒業生や医療・福祉分野の仕事に従事している一般利用者も多いが、令和 2 (2020)年 4 月 17 日以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止上、一般利用者の利用を停止している状況である。

医療・看護・福祉分野は常に新しい内容が求められる分野であるため、改訂版を含め、両学科教員からの購入希望図書等を募り、専門分野の蔵書を充実させるように努めている。また、行政機関や一般企業へ就職を希望する学生のため、専門書だけではなく就職支援資料や公務員試験対策資料の充実を図っていく。

図書館利用促進のため、新入生へ向けた図書館利用方法の案内や、看護学科、医療



福祉学科の3年生に対する看護研究、卒業研究の文献検索方法について職員（司書）とゼミナール担当教員が各ゼミ単位で細やかに指導を行っている。学生が学術的な情報の収集方法を習得する貴重な機会である。

秋田キャンパスの学生については、ノースアジア大学・秋田栄養短期大学の附属図書館を共用して利用することができるほか、OPACにより、秋田に居ながら秋田看護福祉大学附属図書館の蔵書検索と貸し出しができる環境を整備している。さらに秋田キャンパス事務室では、最新の福祉分野の書籍や雑誌のほか、経済・法律などの参考書や、公務員試験対策等に関する書籍を所属学生へ貸し出す対応も行っている。

### 3) バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

学生が利用する正面エントランス、サブエントランスはバリアフリー対応としており、具体的には、サブエントランスには車椅子用の駐車スペース3台とスロープが設置されている。また、教室や実習室と廊下の段差を無くし、校舎内各階へ通じるエレベーターを利用することで、車椅子利用者等の移動を円滑にしている。校舎1階には障がい者用トイレを設置している。AED（自動体外式除細動器）を事務室・保健室前と、体育館入口の計2台設置し、安全・安心な環境で大学生活を送ることができるように整備を行っている。

秋田キャンパスについては、ノースアジア大学敷地内にある40周年記念館に事務室と教室を備え、各階へのエレベーターによる移動や教室と廊下をつなぐ部分のバリアフリー設備を整えている。各施設の出入口にはスロープ及び手すりを設け、車椅子利用者等の移動を円滑化している。校舎1階には障がい者用トイレを設置し、保健室前と秋田栄養短期大学事務室前、総合体育館、体育館にAEDを設置している。

### 4) 授業を行う学生数の適切な管理

授業を受講する学生数は適切に管理されている。

本学の入学定員は看護学科50人、医療福祉学科40人であり、看護学科は「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」、医療福祉学科は「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」、「社会福祉に関する科目を定める省令」、「精神障害者の保健及び福祉に関する科目を定める省令」等に基づく授業を行う学生数の適切な管理を遵守している。

また、秋田キャンパスについては遠隔講義システムを利用した授業環境のもとで、教職員が必ず配置され、適切に管理されている。

#### [自己評価及び将来計画]

校地、校舎等の面積は大学設置基準上必要な面積を上回っており、法令に基づく点検を行い、また、職員による点検・修繕、本学に常駐している管理会社による24時間警備体制により適切に行っている。

実習施設等については、常に関連法令等と照らし合わせ、要件を満たしていることを確認している。また、実習施設指導者と本学担当教員間で連絡を密にしながら実習を展開しており、今後も一層の充実を図っていく。

大学の施設・設備面の老朽化等に対する対応や、教場・実習室の器材や教材、教育機器等の拡充、図書館や学習スペースのさらなる充実を目指した環境整備を計画的に進める。

附属図書館については、秋田キャンパス所属学生に対する専門図書の充実のほか、公務員や一般企業を目指す学生に対して、資格試験対策、採用試験対策・就職情報等に関する書籍をさらに整備していく。一方で、専門図書や就職対策等の書籍だけではなく、学生時代に読んでもらいたい図書を推薦図書としてリストアップし、人格を磨き、人間としての深みを増すことの一助になるような環境整備を推進する。

## 6. 学生の意見・要望への対応

### 1) 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

FD 推進委員会では、教育の質の向上を期して「学生による授業評価アンケート」を毎年継続して実施し、この授業評価による学生の意見・要望をもとに授業の工夫や改善等に取り組んでいる。

令和 2 (2020) 年度の前期・後期科目への「学生による授業評価」の質問項目を表 2-6-1、結果を図 2-6-1 に示す。

回収率について、前期では 1 年生が最も高く 9 割以上となった。3・4 年生は 1 年生に比し低く、後期では 3・4 年生の回収率は約 7 割程度となった。後期は 3・4 年生が前期に比べてさらに回収率の低下がみられた。回収率を上げるために、授業最終回の終了前 10 分程度の時間を使って、アンケートへの回答を記入する時間を設け、廊下に設置している鍵付きの専用ボックスに投函を促すよう教員へ協力してもらっており、以前よりも回収率の上がった学年もある。しかし 3・4 年生は学内の授業科目が少なく大学へ来る機会が減少することも回収率が上がらない一因と考えられる。アンケート実施時の説明と方法、回収の工夫をさらに行い、回収率を上げていく。

令和 2 (2020) 年度前期の〈授業内容を問う〉「真剣」「積極」「理解」「効果」の平均点はいずれも 4 点以上であった。〈総合的評価〉前期では、「有益」「熱意（教員）」「満足」についてもすべて 4 点以上であり、特に「熱意（教員）」「満足」が高い値を示していた。

令和 2 (2020) 年度後期〈授業内容を問う〉「真剣」「積極」「理解」「効果」の平均点はいずれも 4 点以上であった。〈総合的評価〉前期では、「有益」「熱意（教員）」「満足」についてもすべて 4 点以上であり、特に「熱意（指導者）」「満足」が高い値を示していた。

科目別では前・後期の総合科目で〈学生の取組みを問う〉「積極」の項目だけがわずかに 4 点を下回っていた。総合科目は 1・2 年生で履修するが、学生自身が積極的に授業に取り組むように予習や復習、課題の提出等で、主体的に学ぶための学習環境をさらに整えていく必要がある。

表 2-6-1 令和 2 (2020) 年度前期・後期「授業に関する学生アンケート」質問項目

#### 【質問項目】

〈学生自身の取組みを問う〉

1. 「真剣」この授業に真剣な態度で参加できましたか。
2. 「積極」この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。

〈授業内容を問う〉

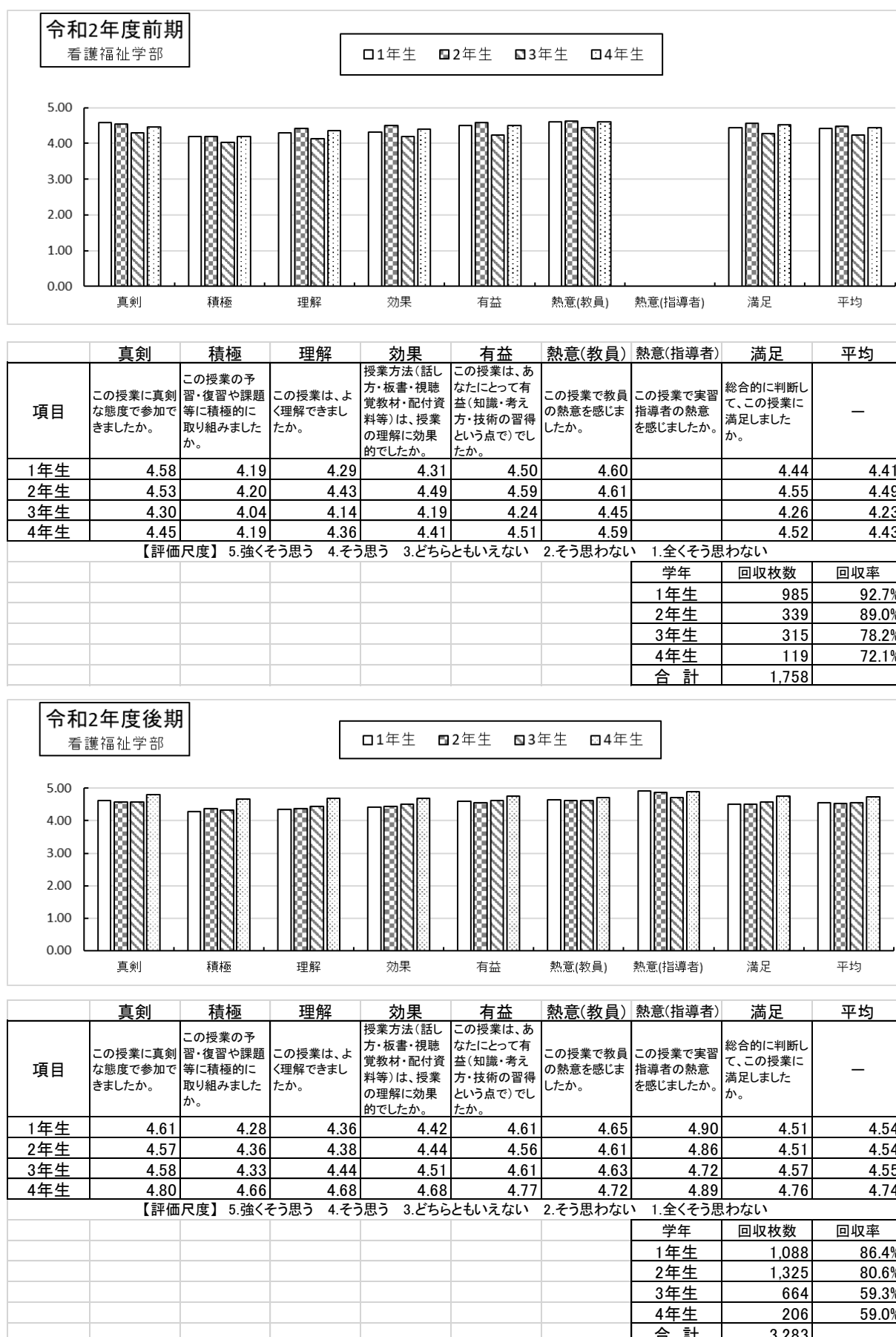
3. 「理解」この授業は、よく理解できましたか。
4. 「効果」授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配布資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。

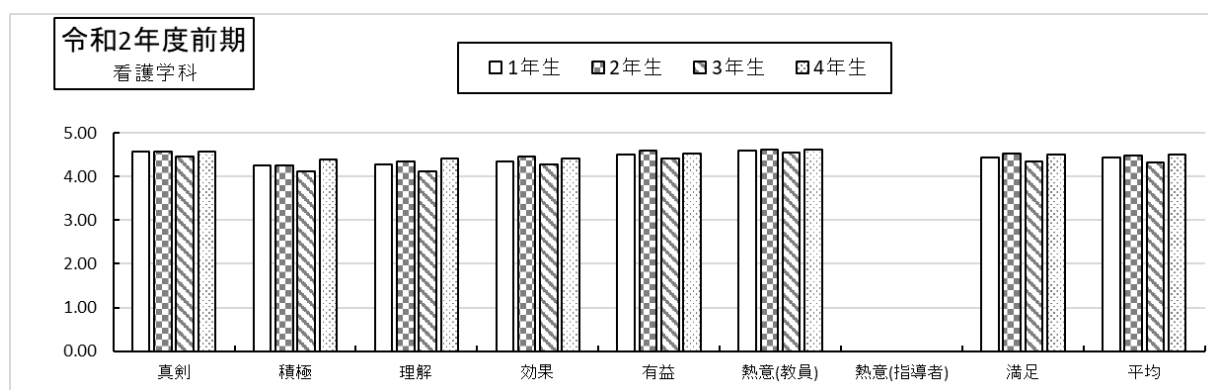
〈総合評価〉

5. 「有益」この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の修得という点で)でしたか。
6. 「熱意（教員）」この授業で教員の熱意を感じましたか。
7. 「熱意（指導者）」この実習で実習指導者の熱意を感じましたか。
8. 「満足」総合的に判断して、この授業に満足しましたか。



図 2-6-1◇令和2(2020)年度 前期・後期科目への「学生による授業評価」結果

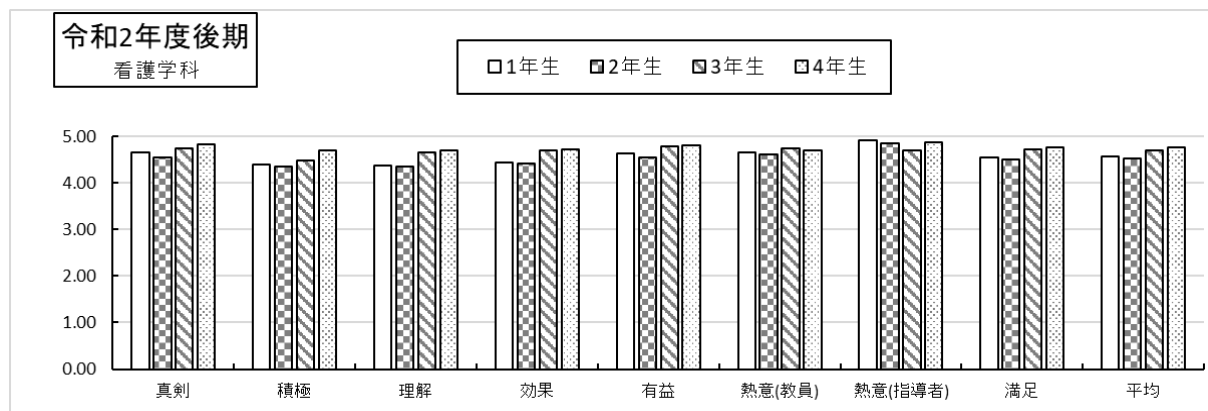




|     | 真剣                   | 積極                           | 理解                | 効果                                       | 有益                                      | 熱意(教員)             | 熱意(指導者)               | 満足                     | 平均   |
|-----|----------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 項目  | この授業に真剣な態度で参加できましたか。 | この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。 | この授業は、よく理解できましたか。 | 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配付資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。 | この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。 | この授業で教員の熱意を感じましたか。 | この授業で実習指導者の熱意を感じましたか。 | 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。 | —    |
| 1年生 | 4.57                 | 4.25                         | 4.27              | 4.35                                     | 4.51                                    | 4.60               |                       | 4.43                   | 4.42 |
| 2年生 | 4.56                 | 4.25                         | 4.35              | 4.45                                     | 4.60                                    | 4.62               |                       | 4.53                   | 4.48 |
| 3年生 | 4.46                 | 4.13                         | 4.13              | 4.26                                     | 4.42                                    | 4.54               |                       | 4.33                   | 4.32 |
| 4年生 | 4.58                 | 4.38                         | 4.41              | 4.41                                     | 4.53                                    | 4.62               |                       | 4.51                   | 4.49 |

【評価尺度】 5.強くそう思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1.全くそう思わない

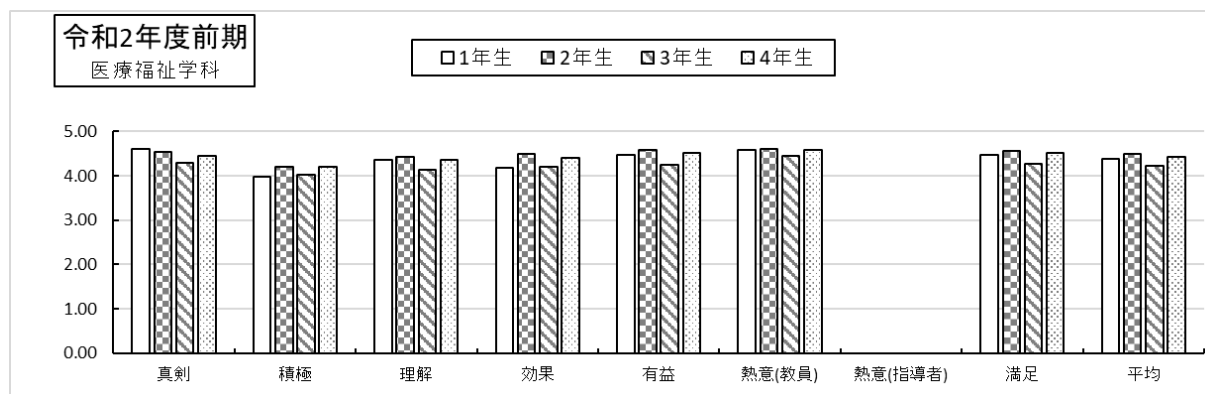
|  | 学年  | 回収枚数  | 回収率   |
|--|-----|-------|-------|
|  | 1年生 | 762   | 93.2% |
|  | 2年生 | 1,254 | 84.5% |
|  | 3年生 | 160   | 66.4% |
|  | 4年生 | 136   | 68.3% |
|  | 合 計 | 2,312 |       |



|     | 真剣                   | 積極                           | 理解                | 効果                                       | 有益                                      | 熱意(教員)             | 熱意(指導者)               | 満足                     | 平均   |
|-----|----------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 項目  | この授業に真剣な態度で参加できましたか。 | この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。 | この授業は、よく理解できましたか。 | 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配付資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。 | この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。 | この授業で教員の熱意を感じましたか。 | この授業で実習指導者の熱意を感じましたか。 | 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。 | —    |
| 1年生 | 4.66                 | 4.39                         | 4.38              | 4.45                                     | 4.64                                    | 4.66               | 4.90                  | 4.54                   | 4.58 |
| 2年生 | 4.55                 | 4.36                         | 4.34              | 4.42                                     | 4.54                                    | 4.61               | 4.86                  | 4.49                   | 4.52 |
| 3年生 | 4.75                 | 4.48                         | 4.66              | 4.69                                     | 4.78                                    | 4.74               | 4.71                  | 4.73                   | 4.69 |
| 4年生 | 4.84                 | 4.70                         | 4.70              | 4.72                                     | 4.80                                    | 4.70               | 4.88                  | 4.77                   | 4.76 |

【評価尺度】 5.強くそう思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1.全くそう思わない

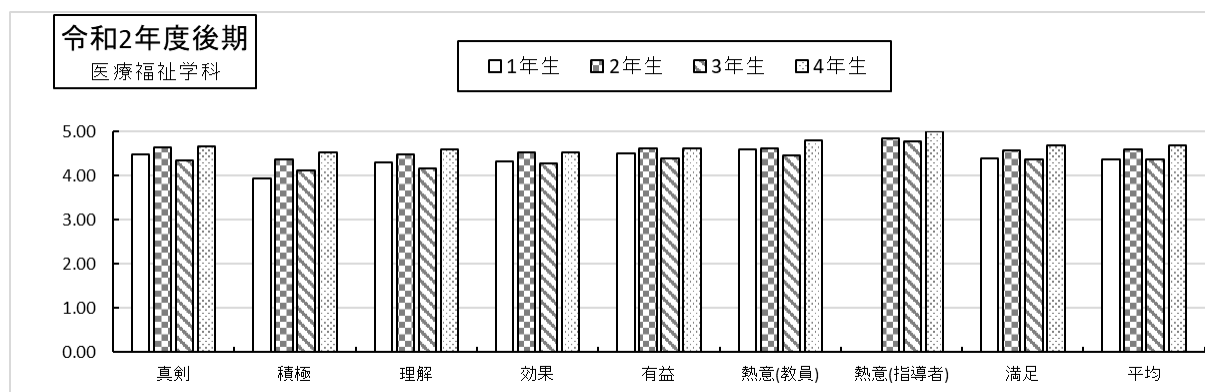
|  | 学年  | 回収枚数  | 回収率   |
|--|-----|-------|-------|
|  | 1年生 | 826   | 84.7% |
|  | 2年生 | 1,048 | 79.0% |
|  | 3年生 | 380   | 49.0% |
|  | 4年生 | 166   | 59.1% |
|  | 合 計 | 2,420 |       |



|     | 真剣                   | 積極                           | 理解                | 効果                                       | 有益                                      | 熱意(教員)             | 熱意(指導者)               | 満足                     | 平均   |
|-----|----------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 項目  | この授業に真剣な態度で参加できましたか。 | この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。 | この授業は、よく理解できましたか。 | 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配付資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。 | この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。 | この授業で教員の熱意を感じましたか。 | この授業で実習指導者の熱意を感じましたか。 | 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。 | —    |
| 1年生 | 4.61                 | 3.97                         | 4.35              | 4.17                                     | 4.46                                    | 4.59               |                       | 4.47                   | 4.38 |
| 2年生 | 4.53                 | 4.20                         | 4.43              | 4.49                                     | 4.59                                    | 4.61               |                       | 4.55                   | 4.49 |
| 3年生 | 4.30                 | 4.04                         | 4.14              | 4.19                                     | 4.24                                    | 4.45               |                       | 4.26                   | 4.23 |
| 4年生 | 4.45                 | 4.19                         | 4.36              | 4.41                                     | 4.51                                    | 4.59               |                       | 4.52                   | 4.43 |

【評価尺度】 5.強くそう思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1.全くそう思わない

| 学年  | 回収枚数 | 回収率   |
|-----|------|-------|
| 1年生 | 223  | 91.4% |
| 2年生 | 339  | 89.0% |
| 3年生 | 315  | 78.2% |
| 4年生 | 119  | 72.1% |
| 合 計 | 996  |       |



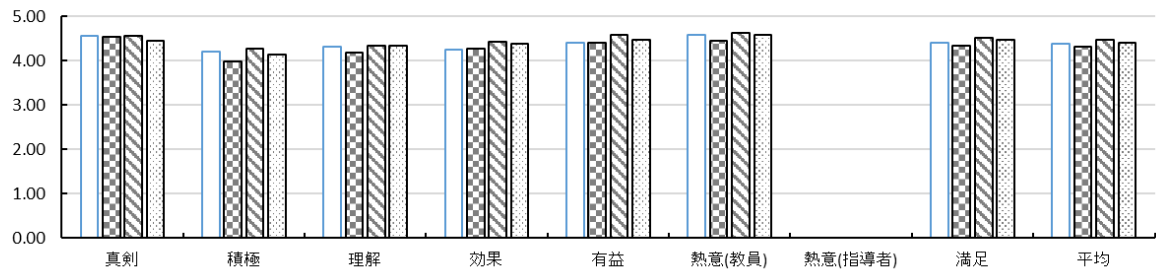
|     | 真剣                   | 積極                           | 理解                | 効果                                       | 有益                                      | 熱意(教員)             | 熱意(指導者)               | 満足                     | 平均   |
|-----|----------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 項目  | この授業に真剣な態度で参加できましたか。 | この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。 | この授業は、よく理解できましたか。 | 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配付資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。 | この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。 | この授業で教員の熱意を感じましたか。 | この授業で実習指導者の熱意を感じましたか。 | 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。 | —    |
| 1年生 | 4.48                 | 3.94                         | 4.30              | 4.32                                     | 4.50                                    | 4.61               |                       | 4.39                   | 4.36 |
| 2年生 | 4.65                 | 4.37                         | 4.50              | 4.54                                     | 4.63                                    | 4.63               | 4.86                  | 4.59                   | 4.60 |
| 3年生 | 4.35                 | 4.12                         | 4.16              | 4.27                                     | 4.40                                    | 4.47               | 4.77                  | 4.37                   | 4.36 |
| 4年生 | 4.68                 | 4.53                         | 4.60              | 4.53                                     | 4.63                                    | 4.80               | 5.00                  | 4.70                   | 4.68 |

【評価尺度】 5.強くそう思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1.全くそう思わない

| 学年  | 回収枚数 | 回収率   |
|-----|------|-------|
| 1年生 | 262  | 92.3% |
| 2年生 | 277  | 87.1% |
| 3年生 | 284  | 82.8% |
| 4年生 | 40   | 58.8% |
| 合 計 | 863  |       |

令和2年度前期  
看護福祉学部

□ 教養科目 □ 総合科目 □ 看護学科専門科目 □ 医療福祉学科専門科目



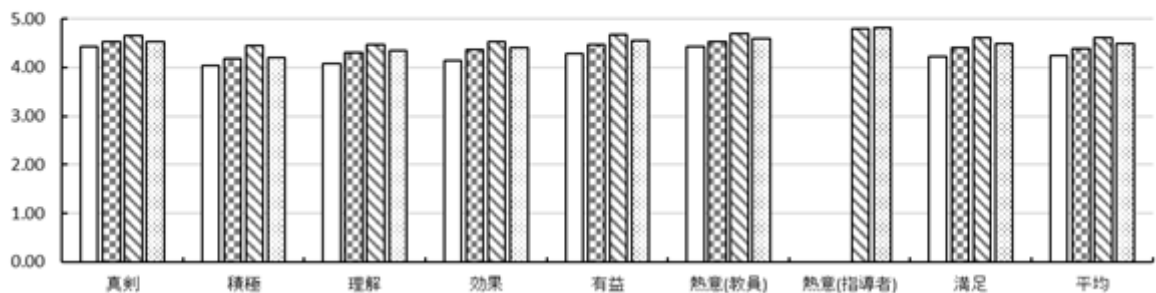
|            | 真剣                   | 積極                           | 理解                | 効果                                       | 有益                                      | 熱意(教員)             | 熱意(指導者)               | 満足                     | 平均   |
|------------|----------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 項目         | この授業に真剣な態度で参加できましたか。 | この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。 | この授業は、よく理解できましたか。 | 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配付資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。 | この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。 | この授業で教員の熱意を感じましたか。 | この授業で実習指導者の熱意を感じましたか。 | 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。 | —    |
| 教養科目       | 4.55                 | 4.21                         | 4.32              | 4.25                                     | 4.40                                    | 4.58               |                       | 4.40                   | 4.39 |
| 総合科目       | 4.52                 | 3.98                         | 4.18              | 4.27                                     | 4.39                                    | 4.45               |                       | 4.34                   | 4.30 |
| 看護学科専門科目   | 4.57                 | 4.27                         | 4.33              | 4.42                                     | 4.58                                    | 4.62               |                       | 4.50                   | 4.47 |
| 医療福祉学科専門科目 | 4.45                 | 4.13                         | 4.33              | 4.38                                     | 4.47                                    | 4.58               |                       | 4.47                   | 4.40 |

【評価尺度】 5.強く思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1.全くそう思わない

| 科目         | 回収枚数  | 回収率   |
|------------|-------|-------|
| 教養科目       | 405   | 91.4% |
| 総合科目       | 266   | 93.0% |
| 看護学科専門科目   | 1,836 | 82.4% |
| 医療福祉学科専門科目 | 823   | 82.6% |
| 合 計        | 3,330 |       |

令和2年度後期  
看護福祉学部

□ 教養科目 □ 総合科目 □ 看護学科専門科目 □ 医療福祉学科専門科目



|            | 真剣                   | 積極                           | 理解                | 効果                                       | 有益                                      | 熱意(教員)             | 熱意(指導者)               | 満足                     | 平均   |
|------------|----------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 項目         | この授業に真剣な態度で参加できましたか。 | この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。 | この授業は、よく理解できましたか。 | 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配付資料等)は、授業の理解に効果的でしたか。 | この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。 | この授業で教員の熱意を感じましたか。 | この授業で実習指導者の熱意を感じましたか。 | 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。 | —    |
| 教養科目       | 4.43                 | 4.03                         | 4.07              | 4.13                                     | 4.29                                    | 4.44               |                       | 4.23                   | 4.23 |
| 総合科目       | 4.53                 | 4.18                         | 4.30              | 4.36                                     | 4.47                                    | 4.53               |                       | 4.40                   | 4.40 |
| 看護学科専門科目   | 4.66                 | 4.45                         | 4.47              | 4.54                                     | 4.67                                    | 4.68               | 4.79                  | 4.61                   | 4.61 |
| 医療福祉学科専門科目 | 4.52                 | 4.21                         | 4.35              | 4.41                                     | 4.54                                    | 4.59               | 4.83                  | 4.49                   | 4.49 |

【評価尺度】 5.強く思う 4.そう思う 3.どちらともいえない 2.そう思わない 1.全くそう思わない

| 科目         | 回収枚数  | 回収率   |
|------------|-------|-------|
| 教養科目       | 295   | 86.0% |
| 総合科目       | 249   | 83.0% |
| 看護学科専門科目   | 2,036 | 70.2% |
| 医療福祉学科専門科目 | 702   | 84.7% |
| 合 計        | 3,282 |       |

## 2) 学生生活や学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

学生サービスや学修環境に対する学生の意見や要望をくみ上げる仕組みとして、自己点検及び自己評価委員会、入試委員会、FD 推進委員会が実施している各種のアンケート調査がある。毎年継続的に実施している調査としては①卒業時大学生生活満足度調査、②新入生に対するアンケート調査、③FD 授業評価アンケートがある。その他に、クラス担任やゼミナール担当教員、教務課クラス担任を含む職員、保健室等による学生相談時の意見や要望の中から、改善を必要とする事項について該当する委員会等で早期に対応策を検討している。

令和 2 (2020)年度は、大学施設・設備の改善策として要望の挙がっていた、演習室の使用申込み手順について、教務課で見直しを行った。その結果、学生の負担感・不公平感を軽減し、できるだけ多くの希望者が効率的に学習することにつながった。また学生 OA 室のサーバーの不調により、ネットワーク環境が 4 月より使用不能となったため、教務課にて故障の原因等の調査・対応を検討し、応急的な措置として、図書館の Wi-Fi 環境をこれまでよりも強化した。しかし大学生生活満足度調査で、これらの大学施設・設備や学校行事に対する評価が総体的に低かった。COVID-19 感染症の感染対策上、今年度の行事については縮小や中止せざるを得ず、学校行事の充実・改善については限定された範囲で実施するに留まった。

### [自己評価及び将来計画]

FD 授業評価アンケートでは全体的に学生の授業評価は高い水準を保っているが、回収率の低い科目や学年があるため回収率を高める工夫をさらに検討する。総合科目の〈学生の取組みを問う〉「積極」の項目が若干低い評価であり、入学時より学生自身が積極的に授業に取り組むことができるように、予習・復習の重要性、図書館の利用やインターネットの活用を通してまとめる機会を設けて、主体的に学ぶ学習環境を整えていく。また、遠隔授業を受けている学生に関しては、アンケート項目の内容を考慮し検討する。

令和 2 (2020)年度からの継続した課題として挙げられている、学生 OA 室におけるネットワーク環境の提供を目指し、応急的な措置として実施した対応の状況を見極めながら、Wi-Fi 環境のさらなる強化などを検討する。また、COVID-19 感染症の収束後には、学校行事に関する見直し・充実を改めて検討する。

学生による授業評価アンケートは継続的に実施しているが、卒業生がどの程度教育目標を達成できているかを評価するために、就職先へのアンケートの実施についても今後検討する。

## 第3章 教育課程

### 1. 単位認定、卒業認定

本学では、「建学の精神」および「大学の目的および使命」（学則第1条）、「教育目標」（学則第6条第2項）を踏まえた卒業認定・学位授与の方針（以下、「ディプロマ・ポリシー」という。）に沿い、所定の単位を修得するとともに、次に示す能力を身につけ卒業試験に合格した学生に対し、卒業を認定し学位を授与することとしている。令和2(2020)年4月には、本学の教育の特色と強みを明確化し、使命・目的にある保健・医療・福祉領域を担う人材養成を高校生や社会に示すことを目的として、三つのポリシーの一部見直しを行い、「福祉学科」を「医療福祉学科」と名称変更した。

#### ●ディプロマ・ポリシー

秋田看護福祉大学は、建学の精神を基本理念として学則第1条及び第6条第2項の目的と目標の実現のため、次に示す要件を満たす学生に対し、卒業を認定して学位を授与します。

##### <看護福祉学部>

- 1) 幅広い教養と人権や生命の尊厳への深い理解、豊かな人間性を涵養する姿勢を備える。
- 2) 問題をみつけ、論理的・科学的に思考し、解決方法を考える能力を備える。
- 3) 倫理観を持って積極的かつ主体的に行動する能力を備える。
- 4) 専門職者としての知識と技術を身につけ、それらを実践的に統合し、応用する能力を備える。
- 5) 調和の精神に根ざしたコミュニケーションがとれ、多様な人々と協働し責任ある行動をとることができる能力を備える。

##### <看護学科>

- 1) 看護の専門的な知識と技能の基本を身につけ、科学的根拠に基づいた判断ができる。
- 2) 専門職業人としての使命感を持ち、多様な人々と連携し、責任ある行動をとることができる。
- 3) 個人や地域が抱える健康問題の解決に向けて、主体的な取組みができる。

##### <医療福祉学科>

- 1) 学問の基礎的な知識にとどまらず、現代科学が到達した先端技術を身につけ、科学的根拠に基づいて判断することができる。
- 2) 深い人間理解に基づく倫理観・使命感を持ち、人間の尊厳を守ることができる。
- 3) 社会福祉の理念を理解した上で、実社会における諸課題を解決し、地域社会に貢献することができる。

成績評価と単位認定については、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則31条に則り

厳正に行っている。また科目ごとの成績評価方法はシラバスで具体的に示しており、定期試験や中間試験、レポートや課題、学習態度（授業への参加状況）等により総合的に評価している。これらについては、初回の授業時に説明するなどして学生に周知している。また、出席確認はほぼ全科目で行われており、そのことが、早い段階での個々の学生への綿密な指導に結びついている。

成績は次の基準で評価され、評価 C 以上で単位が認定される。評価 D の場合は再履修となる。

AA：100 点～90 点

A：89 点～80 点

B：79 点～70 点

C：69 点～60 点

D：59 点以下

進級要件は履修内規第 8 条に定められており、3 年次に進級するためには、2 年以上在学し、看護学科では、原則として 2 年次までに修得すべき必修科目をすべて修得していることが必要である。医療福祉学科では、修得単位数が 50 単位以上必要である。

実習履修要件については、「秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科実習科目履修要件」及び「秋田看護福祉大学看護福祉学部医療福祉学科実習科目履修要件」に定めている。これらについても学生便覧に明記し、ガイダンス等で周知を図っている。

卒業要件は、学則別表に示す通り、看護学科は 125 単位以上、医療福祉学科は 124 単位以上を修得するとともに、卒業試験に合格することとなっており、学生便覧、ガイダンス、掲示等で周知している。

ディプロマ・ポリシーに沿った能力を修得しているかを測るために、本学では 4 年次に卒業試験を実施している。看護学科では「看護総合（卒業試験含む）」の単位認定の条件になる。問題は看護師国家試験に準じた形式とし、ディプロマ・ポリシーを志向した内容を含め、看護学科教務委員が出題している。合格基準を必修問題 80% 以上、一般・状況設定問題 65% 以上の両方を満たすものと設定し、問題数は必修問題、一般・状況設定問題ともに看護師国家試験の 2 分の 1 とした内容となっている。

医療福祉学科では、社会福祉士国家試験と同様の形式とし、医療福祉学科教務委員が出題している。問題数は社会福祉士国家試験と同様に共通科目 83 問、専門科目 67 問、合計 150 問となっており、60% 以上の得点を合格基準としている。令和 2 (2020) 年度は、秋田キャンパス所属の学生として初めての卒業試験を実施した。大館の学生とは履修科目が異なることから、秋田キャンパスの卒業試験問題作成にあたっては、履修科目に沿った科目数及び問題数を設定した。

本学の卒業試験は、両学科共にディプロマ・ポリシーを志向した内容を含め看護師国家試験や社会福祉士国家試験に準じた形式で出題し、合格基準を設定して 4 年間の学習成果を測っている。卒業試験は学生の国家試験に向かう動機づけに有効であり、国家試験の合格にも反映されている。

本学では開学時より GPA(Grade Point Average)による得点を算出し、公平な成績評価により学業奨学生の選抜や卒業時各賞の表彰、助産師科目・保健師科目・精神保健福祉士科目の履修者の選考、就職試験の推薦等の基準として用いている。また、学生への学習の指導に利用するなど幅広く活用を行っている。この制度については、学生便覧にも掲載し、オリエンテーション等を通じて学生へ周知している。

卒業判定については、単位修得状況を各学科の教務委員会で審議し、さらに教授会で判定した結果を参考に、学長が認定している。

[自己評価及び将来計画]

卒業試験はディプロマ・ポリシーに沿った能力を修得しているかを測り、学生の国家試験に向かう動機づけに有効であることから、ディプロマ・ポリシーの見直しや検証を今後も継続する。

## 2. 教育課程及び教授方法

本学は「建学の精神」および「大学の目的および使命」（学則第1条）、「教育目標」（学則第6条第2項）に基づき、教育課程編成・実施の方針（以下、「カリキュラム・ポリシー」という。）を編成し、学内外へ周知している。

### ●カリキュラム・ポリシー

<看護福祉学部>

秋田看護福祉大学は、一人ひとりの学生を大切に、「豊かな人間性と知性」を涵養し、「確かな知識と実践力」と「たゆまぬ向上心と創造する力」を育むことを教育目標として掲げています。さらに、卒業後も人を大切にする“こころ”（調和の精神）を持って仕事に励み、人生を生きていく社会人になることを目指した教育課程を編成します。このため学部共通の教育基盤として、豊かな人間性と知性を持ち、調和の精神を養うために、両学科の学生が共に学ぶ「教養科目」「総合科目」を配置します。

- 1) 「教養科目」には豊かな人間性と知性を涵養するための幅広い教養を身につけるための科目を配置する。また、初年次教育として、自らの将来を見据え、主体的な学びや大学の学習方法を理解するための少人数演習による授業を行う。
- 2) 「総合科目」には、専門職として欠かせないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を涵養するための科目、多職種とのパートナーシップを育成するための実践的な演習を取り入れた科目を置く。また、保健・医療・福祉サービスを総合的な視点で学習するための科目を置き、両学科の学生が討論しながら実践的な課題に取り組む教育を行う。

<看護学科>

- 1) 「教養科目」「総合科目」と並行して看護学の基盤となる「専門基礎科目」と、看護学の専門性を深める「専門科目」を、学年進行に従い体系的な学習を進めることができるように、初年次から配置する。
- 2) 多様な場における医療を支える優れた看護ケアを提供するために、様々な発達段階や健康レベルにある対象のニーズを把握し、科学的な根拠に基づく判断と支援を提供するための科目を配置する。
- 3) 他の職域スタッフとの連携・協働により、複雑化する保健・医療・福祉のニーズに対応した地域包括ケアシステムを意識し、実践に結びつけるための科目と、グループ学習やディスカッション、実習室での技術学習等により、コミュニケ



ーションや人間関係作りを体験的に学ぶ科目を配置する。

- 4) 高齢社会に即した看護を実践するための能力を身につける科目や、個人や地域が抱える健康問題を解決するための方法を学ぶ科目を配置する。
- 5) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から、女性の健康問題をとらえ、また妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者の状況を的確に把握し、適切な看護や助産を実践するための科目を配置する。
- 6) 医療施設や老人保健施設、訪問看護ステーション等の地域における様々な実習により、多様な人々との関わりを通して、対象との良好な関係性を築きながら、看護専門職として必要な支援を実践できる能力を身につけるための科目を配置する。

#### <医療福祉学科>

- 1) 医療福祉コースでは、初年次教育については教養科目の「基礎演習」や総合科目の「社会福祉概論」など次年次以降、主体的に学ぶための基礎的な科目を配置する。同時にソーシャルワークの基本科目として、介護福祉士関係の専門科目を配置する。また、医療福祉分野における多職種連携のために、「医療と福祉のマネジメント」「医学一般」「コミュニケーション論」などの科目を配置する。
- 2) 医療福祉コースでは現代社会の抱える問題を社会福祉、精神保健福祉、介護福祉の視点から総合的に捉え、解決に導くための科目を配置する。
- 3) 多様な場における医療福祉を支援するために、高齢者ケア、児童・家庭福祉、精神障害を含む障害者支援など、高齢化や人口減少等、地域の諸課題に対応する科目を配置する。
- 4) 医療保健機関や各種法人、事業所等の様々な実習により、医療や福祉の分野でソーシャルワーカーとして必要な支援を実践できる能力を身につけるための科目を配置する。
- 5) 行政企業コースでは、初年次は「教養科目」「総合科目」のほか、学園内大学・短大との単位互換・科目認定にて幅広い領域の科目を複数配置する。

## 1) カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の編成

本学の教育課程は、教育目的を反映したカリキュラム・ポリシーに沿って編成しており、教養科目、総合科目、専門基礎科目（看護学科）、専門科目で構成されている。本学では1年間に履修する単位を、50単位を上限として定めている。国家試験受験資格に係る科目は上限単位数には含めないこととしているが、クラス担任や教務委員が相談に応じ、学生の学修計画が過剰な負担とならないよう指導している。このことから、教養科目の数はある程度制限し、保健・医療・福祉職に必要な、専門科目を学ぶ上での基礎となる科目を合同教務委員会が検討している。教養科目には大学で学ぶための基本的なスキルを身につける科目、看護職・医療福祉職に必要となるコミュニケーションと人間の理解に必要な科目、情報活用処理能力を育成する科目などを配置している。また、総合科目には看護学科・医療福祉学科に共通する保健・医療・福祉の基礎となる専門科目を配置している。

看護学科は専門科目をさらに、看護学を学ぶ上で必要となる医学・薬理学等の知識を教授する専門基礎科目と、保健学・助産学を含む看護学全般を専門科目に分けて配置している。また、卒業要件単位で看護師国家試験資格を得るカリキュラムが組まれている。実習施設の受入れ等の関係で、助産師国家試験受験資格と保健師国家試験受験資格を得るカリキュラムは選択制となっている。

医療福祉学科の卒業要件単位は124単位である。学科指定科目を履修し124単位で学士（社会福祉学）として卒業できる。医療福祉コースでは社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験受験資格のための履修が可能（秋田キャンパスは社会福祉士のみ）であり、それぞれの指定科目を履修する。このうち精神保健福祉士国家試験受験資格を得るカリキュラムの選択には、実習施設の受入れ等の関係から人数制限を設けている。

本学のカリキュラムは資格取得を目的とする学生に対応できるよう編成されているが、医療福祉学科では資格にこだわらず、124単位の単位取得で卒業が可能であり、行政企業コースでは、多種多様な場で活躍できる人材を育成している。また、秋田キャンパスでは、本学の社会福祉学を中心とした科目を対面授業や遠隔授業で受講する他に、ノースアジア大学・秋田栄養短期大学が開講する教養科目、経営学、経済学、法学、観光学、栄養学などの科目を、単位互換制度や科目認定を利用し最大60単位まで受講できる。このような環境のもと秋田キャンパスでは、福祉に関する知識を活かし、一般企業や非営利法人、公務員など現代社会の多様なニーズに対応できる人材の育成を目指している。

令和元(2019)年度からは、看護学科における看護学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った教育課程の検討を行った。看護学科のカリキュラムは、平成29(2017)年10月に文部科学省が提示した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容がすべて網羅されていることを確認し、現行カリキュラムの評価と改善点を検討した。この結果を踏まえ、平成30(2018)年に提示された「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に則り、新カリキュラムの編成の検討を開始した。医療福祉学科では、令和3(2021)年度から「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則」「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」「社会福祉に関する科目を定める省令」の一部を改正する省令、「精神保健福

「福祉士法施行規則」の一部を改正する省令に則り、社会福祉士及び精神保健福祉士の養成科目が新カリキュラム対応となるため、現行カリキュラムを見直し、さらに本学医療福祉学科としての特徴をカリキュラムに反映させ内容の充実を図った。

| 1 年                                           | 2 年 | 3 年   | 4 年 |
|-----------------------------------------------|-----|-------|-----|
| 教養科目                                          |     |       |     |
| 総合科目                                          |     |       |     |
| 専門基礎科目(基礎医学→臨床医学)                             |     |       |     |
| 看護師科目(基礎看護→小児・母性・成人・精神・老年・在宅→看護の展開・統合実習・看護研究) |     |       |     |
|                                               |     | 保健師科目 |     |
|                                               |     | 助産師科目 |     |

図 3-2-1 看護学科履修系統図

| 1 年     | 2 年 | 3 年       | 4 年 |
|---------|-----|-----------|-----|
| 教養科目    |     |           |     |
| 総合科目    |     |           |     |
| 介護福祉士科目 |     |           |     |
|         |     | 社会福祉士科目   |     |
|         |     | 精神保健福祉士科目 |     |

図 3-2-2-a 医療福祉学科履修系統図（医療福祉コース）大館の学生対象

| 1 年              | 2 年     | 3 年 | 4 年 |
|------------------|---------|-----|-----|
| 教養科目             |         |     |     |
| 総合科目             |         |     |     |
|                  | 社会福祉士科目 |     |     |
| 行政・法律・経済・栄養専門科目  |         |     |     |
| 企業・スポーツビジネス系専門科目 |         |     |     |

図 3-2-2-b 医療福祉学科履修系統図（医療福祉コース）秋田キャンパスの学生対象

| 1 年        | 2 年       | 3 年 | 4 年 |
|------------|-----------|-----|-----|
| 教養科目       |           |     |     |
| 総合科目       |           |     |     |
| 医療福祉学科専門科目 |           |     |     |
|            | 福祉行政研究室入室 |     |     |

図 3-2-3-a 医療福祉学科履修系統図（行政企業コース）大館の学生対象

| 1 年              | 2 年 | 3 年 | 4 年 |
|------------------|-----|-----|-----|
| 教養科目             |     |     |     |
| 総合科目             |     |     |     |
| 医療福祉学科専門科目       |     |     |     |
| 行政・法律・経済・栄養専門科目  |     |     |     |
| 企業・スポーツビジネス系専門科目 |     |     |     |

図 3-2-3-b 医療福祉学科履修系統図（行政企業コース）秋田キャンパスの学生対象

#### [自己評価及び将来計画]

令和 4（2022）年度入学生から、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」改正に伴うカリキュラム改正が予定されていることから、本学の三つのポリシーを社会情勢の変化や大学教育を取り巻く変革に合わせ、見直しを図りながら、ポリシーに沿った新教育課程の検討を進めていく。

1 年間に履修登録できる上限単位数についても検討を行い、学生の学修計画の負担を軽減し、目標達成のためにより適切な時間数を設定する。

## 2) 教授方法の工夫と授業の内容充実のための取り組み

本学の FD 推進委員会では授業の内容を充実させるために、全教員への共通認識を浸透させるため各種研修会を毎年開催している。例年外部講師を招聘し、FD 講演会を行っていたが、令和 2 (2020) 年度は COVID-19 感染防止を考慮して委員会で検討を重ねた結果、FD 講演会を取りやめ、ワークショップの充実を図ることとした。最終的に令和 2 (2020) 年度の研修として FD ワークショップ (2 回)、公開授業、公開授業に関する授業検討会を開催した。

### (1) FD ワークショップ (第 1 回目)

令和 2 (2020) 年度の FD 推進委員会では、「学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法、双方向の授業展開等、教員の教育方法の質的転換に努める」ことを目標に令和 2 (2020) 年 7 月 3 日 (木) 16 : 20 ~ 17 : 00、第 1 回 FD ワークショップを開催した。

COVID-19 感染症対策として、グループ同士の間隔を十分にとったうえでの開催とし、短時間での開催となるよう工夫をした。第 1 回のワークショップのテーマは「学生の理解度を増すための授業方法とは？」とし、サブテーマを①プリントの分量、②学生の主体性を引き出す授業、③国家試験を意識した内容をどのように授業に取り入れているか、④その他の内容で 3 つのグループに分かれ、教員と教務課職員がそれぞれの立場で意見を交換した。FD 推進委員のメンバーをファシリテーターとして各グループに配置し、書記は教務課職員が行いながら、話し合いをし授業方法等について共有した。参加者は教職員合わせて 21 名であった。終了後アンケートを実施した。アンケートの集計結果を表 3-3-1 に示す。

表 3-3-1 FD ワークショップ（第 1 回目）アンケート結果（一部抜粋）

**問 1 有意義だった点について**

- ・各教員から授業で行っている工夫や、学生が困っている点など、様々な情報を共有できた。今後の自身の授業、大学のカリキュラム等に生かせる内容であった。
- ・本学の少人数教育の良さを実感し、それをもっと伸ばしていく必要があると感じた。
- ・本学の特色を改めて認識することができ、とても有意義であった。学生目線での本学の特色を聞く機会はあったが、教員目線での特色を知ることができた。

**問 2 改善点について**

- ・時間が限定されていたのは、やむを得ないが、時間不足で消化不良な点があった。
- ・出席率を上げるため、時期、日にちを検討していただければと思います。

**問 3 今後話し合いたいテーマについて**

- ・ 自ら学ぶ力を育むために心がけていること。
- ・ 学習習慣の身につけ方。
- ・ 看護と医療福祉合同で行う何か（演習や授業）について話題があがったので、次回は、その何かを具体的に話す機会があればいいと思います。

**問 4 その他**

- ・ 学科間の意見交換は刺激となりました。

**（2）FD ワークショップ（第 2 回目）**

第 2 回 FD ワークショップを令和 2 (2020) 年 12 月 3 日（木）16：20～17：00 に行った。本学の教育の特色として、学科間の連携教育を今後どのように展開していくかを目的に「学生の理解度を増すための授業方法とは？～学科間の専門職としての連携教育を考える～」をテーマに開催した。3 つのグループに分かれ第 1 回目と同様 FD 推進委員のメンバーがファシリテーターを務め、書記を教務課職員が行いながらテーマに沿って話し合いをした。参加者は教職員合わせて 25 名であった。終了後にはアンケートを実施した。アンケートの集計結果を表 3-3-2 に示す。

表 3-3-2 FD ワークショップ（2 回目）アンケート結果（一部抜粋）

**問 1 有意義だった点について**

- ・今後のカリキュラム編成を見据えた具体的な意見交換ができたと思います。方向性がみえる内容でした。
- ・職種間の違い、知識や価値観の差異などの様々な問題があると考えられるので、どのように進めることができるのかを考えなければいけないのではないかと理解した。
- ・地域包括支援システムの構築に向けた取り組みとして、学科間の専門職としての連携教育は早い段階から知識習得が必要だと思いますので、有意義だったと思います。
- ・連携教育について両学科の教員で意見交換ができ、連携教育の重要性について意識を確認することができた。

**問 2 改善点について**

- ・限られた時間の中での話し合いなので、なかなかまとまりきれなかったと思います。
- ・時間が不足。研修会を充実させるためには時間が必要。

**問 3 今後話し合っていたいテーマ**

- ・ICT 教育について。
- ・多職種連携のテーマに引き続き取り組んでほしい。
- ・医療現場で働く際に必要な力、思い遣り等→多職種連携の観点について

**問 4 その他ご意見・感想**

- ・コロナ対策を十分に行っていましたので、安心してワークショップに参加できました。
- ・時間配分等も良かったです。委員の先生方のファシリテートも適確でした。

### （3）公開授業

令和 2 (2020) 年 11 月 2 日（月）～11 月 13 日（金）の 2 週間の中で、最低 1 回専任教員の授業を参観することとし、医療福祉学科・看護学科、教養科目・総合科目・専門科目を問わず、参加したい授業に参加する方法とした。その後「公開授業に関するアンケート（参加者用）」を提出することとした。対象科目は延べ 42 科目で参加者人数は 31 人（参加率 82.1%）、授業担当教員数は 14 人であった。参加者の多かった科目は「人間の理解Ⅱ（遠隔）」5 人、「在宅ケア論Ⅱ」4 人、「ソーシャルワーク論Ⅱ（遠隔）」4 人、「精神看護方法論Ⅱ」4 人、「基礎看護技術論Ⅱ」3 人、「生命科学（遠隔）」3 人、「成人看護方法論Ⅱ」3 人であった。

「公開授業に関するアンケート（参加者用）」のアンケート集計結果では、学生の理解度を増す授業方法について有意義な時間となったなどの意見があり、参加率の高さと相まって、結果の内容量が膨大となっており教職員の関心の高さが伺われた。

### （4）公開授業に関する授業検討会

令和 2 (2020) 年 11 月 26 日（木）16：20～大教場で行った。「学生の理解度を増すための授業方法とは？ー公開授業を終えてー」と題して検討会を開催した。参加者には令和 2 年度「公開授業」に関するアンケート（参加者用）結果と（授業担当教員用）結果の資料を事前に配布し、①参加した感想やアンケートで気になる点、②授業を担当

した感想やアンケートで気になる点について、3つのグループに分かれて検討をした。書記と発表者はグループで決め司会はFD推進委員が行った。参加人数は24名であった。検討会終了後には「授業の検討会」に関するアンケートを実施した。集計結果を表3-3-3に示す。

表 3-3-3 公開授業に関する授業検討会アンケート結果（一部抜粋）

**問1 有意義だった点**

- ・公開授業で得た知識・情報をさらに掘り下げることができた。気が付かなかった視点も得ることができた。
- ・重要度の高い内容・中身に時間をかけていく授業の構成の必要性について再認識できた。
- ・教えることの難しさを改めて痛感した。
- ・教員間で意見交換をすることができた。
- ・事前に配布されたアンケート結果を踏まえ、グループで意見交換ができ、今後の授業改善に活用できる内容が数多くあり、大変有意義だった。
- ・日頃、自分が感じていた授業の展開方法における疑問点を、グループ内の教員へ直接聞くことができて解決できた。今後自分の授業に活用したい。

**問2 改善点**

- ・コロナ対応のため仕方ないが、やはり時間が少し短いため、不消化の部分があった。
- ・公開授業の運用の工夫。
- ・資料を事前配布して頂けて良かったので、議題も事前に教えてもらえると、あらかじめ考えて検討会に参加できるかもしれない。

**問3 その他ご意見・感想**

- ・多様な学生がいる中で、全員が同じレベルの理解度に同じ時期に到達できるかという点と難しい。

[自己評価及び将来計画]

令和2(2020)年度のFD推進委員会では、FDワークショップ2回、公開授業と公開授業に関する授業検討会を開催した。COVID-19感染拡大により、一部研修会の内容変更や対面による時間の短縮を行ったものの、各研修会終了後のアンケート結果からも分かるように、学生に対する授業の工夫など教員同士の意見交換や情報共有により、各教員の教育力の向上を図る機会となった。今後も引き続き教員の意見を取り入れた研修会内容の充実を図っていく。また、改善点で意見があった開催時期や運営方法については今後の感染状況を踏まえ、検討課題とする。

### 3. 学修成果の点検・評価

令和2(2020)年度はCOVID-19感染拡大により、感染防止対策に留意し、学生と教職員の安全を第一に考えた上で、教育の内容や質の低下が起こらないように、教職員が連携し、学年ごとのきめ細かい対応を図りながら学習環境の調整等を行った。具体的には、①緊急事態宣言が発出されたことに伴い休校中(4月23日~5月5日)の課題の提示、②感染防止対策に留意した授業の工夫・対応、③夏季・冬季等の長期休み期



間の滞在地域確認および感染者との接触・感染多発地域からの移動者との接触の有無（2週間）について健康観察表を用いて確認等を行った。

COVID-19 感染拡大による影響で看護学科の一部臨地実習を学内実習（課題学習等）へ切替えて実施したが、大部分は感染防止に留意しながら、臨地で実施することができた。また、令和2(2020)年度の実習科目の評価についても、例年とほとんど変化は見られなかった。

看護学科において影響のあった臨地実習とその対応は、以下の通りである。

- ① 早期体験実習（1年）：施設見学の中止により学内での課題学習
- ② 公衆衛生看護学実習（4年）：実習日程・期間の変更および調整、保健所実習の中止により学内での課題学習
- ③ 助産学実習（4年）：助産院実習・母親教室の中止により学内での保健指導等実習

令和2(2020)年度、医療福祉学科の臨地実習については、実習開始前に受入れの可否に関する施設の意向を確認し調整した結果、年度途中での実習中止や施設の変更は1件もなく、すべての実習で規定の時間（単位）数を確保することができた。

看護学科の卒業試験は12月初旬に実施し、過去3年間の結果は59～67名中1～5名が当初の試験では不合格であった。しかし、学習方法等について再度指導を行い、再試験を行った結果、これらの学生は全員合格し、さらに2月に実施した看護師国家試験にも合格した。この結果から卒業試験を12月に実施することは、学生にとっては国家試験に向かう動機づけとなり、教員にとっては学生の学修支援のための資料となっている。

医療福祉学科の卒業試験は11月上旬～中旬に実施しており、過去3年間の結果は、平成30(2018)年度は36名全員合格、令和元(2019)年度は19名中1名不合格となり、再試験で合格している。令和2(2020)年度は秋田キャンパスでは、初めての卒業生を輩出する年であり、大館の学生と履修科目が異なることから、秋田キャンパスの卒業試験問題作成にあたっては、履修科目に沿った科目数及び問題数を設定した。大館の31名は全員合格、秋田キャンパスでは4名中1名が不合格となり、再試験で合格している。令和3(2021)年度の卒業試験は、大館・秋田共に、社会福祉士国家試験を受験する医療福祉コースの学生と、受験しない行政企業コースの学生が混在するので、履修科目や国家試験対策と連動した卒業試験とした上で、学生個々に合わせた支援をしている。

#### [自己評価及び将来計画]

令和2(2020)年度はCOVID-19 感染拡大による影響で看護学科の一部臨地実習は学内での課題学習等へ切替えて実施するなど、教職員が連携し国家試験受験資格を担保するための授業を維持し、学生の学修支援に努めた。

ディプロマ・ポリシーに沿った能力を修得しているかを測るために学生に課している卒業試験は、4年間の学修成果を評価するうえで有効に機能している。今後はさらにディプロマ・ポリシーを志向した問題、社会情勢や最新の情報を取り入れた問題等精選し、学修成果の習熟度を見極めていく。